上田市文化財調査報告書第78集

銀杏木・宮原遺跡

県営畑地帯総合土地改良事業（塩田地区）に伴う発掘調査報告書

1999. 3

長野県上小地方事務所

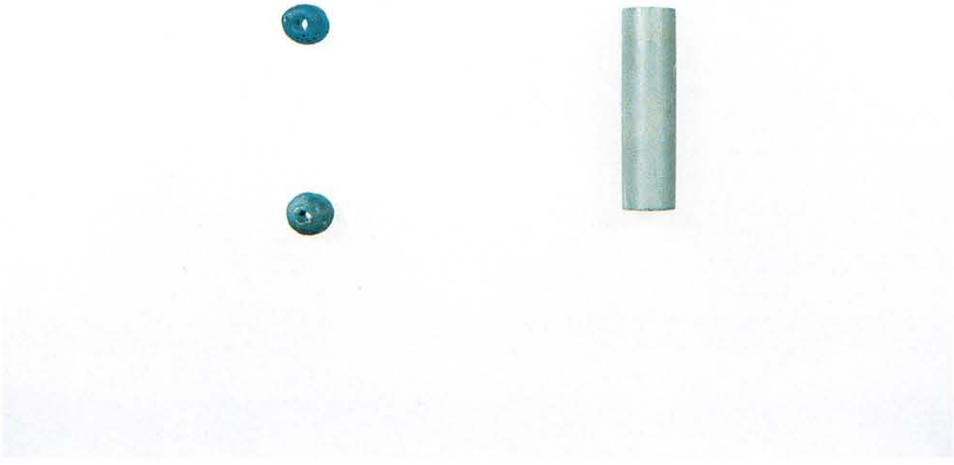
上田市教育委員会

住居跡出土土器

中央 14
手前左から 15、22、1、17、5
（弥生時代後期）

碧玉

左から 39、40、41、42
（弥生時代後期）



土坑墓（SK05）

ガラス小玉　左上44、左下45
管玉　右46
（古墳時代初頭）

上田市文化財調査報告書第78集

銀杏木・宮原遺跡

県営畑地帯総合土地改良事業（塩田地区）に伴う発掘調査報告書

1999. 3

長野県上小地方事務所

上田市教育委員会

序

上田市は長野県の東部、千曲川の清流と烏帽子岳をはじめとする山々に囲まれた美しいまちです。近年は上信越自動車道、北陸新幹線の開通に伴い地域の要としてますますの発展が期待されているところであります。

一方、遠く時代を溯ると古代には聖武天皇の詔によって信濃国分寺が建立されました。また、信濃国の国府も置かれていたと考えられており、当時の上田地域は信濃国の政治・文化の中心地であったことが分かります。中世には塩田平に数多くの寺院が建立され、信州の学海と呼ばれるほど学問が隆盛しました。安土桃山時代には上田城を本拠地として真田氏が活躍し、現在の上田市発展の下地をつくりあげました。近代に入ると信越本線が開通し一時は蚕都と呼ばれるほどの養蚕・製糸業のまちとして活気を呈しています。このように、上田は古代から現在に至るまで地域の政治・経済・文化を担ってきました。

このたび、上田市前山地区において、県営畑地帯総合土地改良事業が計画されました。同地区は周知の埋蔵文化財包蔵地「銀杏木遺跡」「宮原遺跡」に当たることから、工事に先立ち発掘調査を実施し後世に記録を残すこととなりました。調査の結果、縄文時代から中世にわたる遺跡であることが明らかとなり、なかでも弥生時代後期の竪穴住居跡からは石製装身具の製作に使用されたと思われる碧玉が出土したほか、古墳時代の墓坑から埋葬人骨と共に管玉・ガラス小玉が発見されるなど、当地方の歴史を解明するうえで貴重な史料を提供するものとなりました。

近年、当市で行われる発掘調査は、そのほとんどが開発行為に伴って実施されており、記録保存の後、工事により姿を消す遺跡が跡を絶ちません。埋蔵文化財は過去の人々の日常生活をうかがい知ることのできる貴重な情報源であり、私たちの郷土の歴史を解き明かすかけがえのない財産であります。これらを生きた教材として生涯学習の中で活用していくことが、現代に生きる私達の生活を豊かにするものと確信しております。

最後になりましたが、夏の炎天下の発掘作業に御協力いただいた皆様、調査の実施に当たり御尽力を賜りました県営塩田畑総前山工区実行委員会ならびに関係機関各位に感謝の意を表する次第であります。

平成11年3月

上田市教育委員会教育長　我妻　忠夫

例　言

1　本書は下記の遺跡に関する発掘調査報告書である。

・銀杏木遺跡（上田市大字前山字銀杏木）　　・宮原遺跡　（上田市大字前山字宮原）

2　本調査は、県営畑地帯総合土地改良事業（塩田地区）に伴う発掘調査報告書であり、長野県上小地方事務所から委託を受け、上田市（上田市教育委員会事務局文化課）が実施した。

3　現地調査は、銀杏木遺跡（平成10年6月18日～平成10年7月9日）・宮原遺跡（平成10年7月23日～平成10年8月21日）で実施し、整理作業・報告書刊行は平成10年8月25日から平成11年3月25日まで断続的に行った。

4　本書の作成は小笠原正が行った。

5　本書作成に当たっての分担は次の通りである。

遺物整理・復元：井沢光子、大井敬子、金沢修次郎、甲田五夫、鈴木義房、西沢 勝、保屋野友延、柳沢栄治
山本万里

遺物実測・拓本：井沢光子、上原祐子、大井敬子、小笠原正、田畑しず子、田村雄二、中沢由美子、松本裕子

・トレース　　山浦幸子、山本万里、横井順子

遺物写真撮影：小笠原正・塩崎幸夫

版組：井沢光子、大井敬子、小笠原正、久保田浩、中沢由美子、山本万里

6　石器石材の鑑定は上田女子短期大学 塩入秀敏 教授および上田市誌編纂室 甲田三男 氏に御教示いただいた。

7　遺物実測のうち宮原遺跡出土土器・石器の一部を株式会社こうそくに委託した。

8　現地調査における基準点測量・水準点測量および航空写真撮影・測量は、株式会社写真測図研究所に委託した。

9　本調査に係る出土遺物、実測図等は上田市立信濃国分寺資料館に保管している。

10　本調査に当たり畑総前山工区実行委員会、上田市農政部土地改良課には様々な御協力をいただいた。記して感謝する次第である。

11　各遺構の略称は次のとおりである。

ＳＢ：竪穴住居跡　　ＳＴ：掘立柱建物跡　　ＳＫ：土坑　　ＳＤ：溝跡　　Ｓ：礫

12　遺構実測図は原則として原図1/20、縮尺1/3である。

13　土器は縮尺1/3、土器拓本・石器・石製品・鉄製品は縮尺1/2を原則とした。

14　土器の実測方法は、４分割法を用い、右側1/2に断面および内面を、左側1/2に外面を記した。

15　スクリーントーンの指示は次の通りである。

遺構：焼土　　土器：赤色処理　　灰釉陶器：断面　　須恵器：断面

石器：磨面　　黒色処理

16　遺物観察表の（　）内の数値は、土器については推定値、石器・石製品・鉄製品については残高・現重量を表している。

17　遺物番号は本文・観察表・実測図・写真図版とも相互に一致している。

18　土層および出土土器の色調は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修）1997年度版を使用した。

19　本調査に係わる事務局の体制は次のとおりである。

教 育 長 我妻忠夫　　教育次長 宮下明彦　　文化課長 川上 元　　文化財係長 細川 修

文化財係 中沢徳士、尾見智志、塩崎幸夫、久保田敦子、久保田 浩、西沢和浩、山嵜敦子、清水 彰、小笠原 正
望月貴弘、古野明子、松野ひろみ、須齋千恵子

目　次

序
例言
目次

第１章　発掘調査の経緯
　第１節　調査に至る経緯 ・・・・1
　第２節　調査日誌(抄) ・・・・・・1

第２章　遺跡の環境
　第１節　自然的環境 ・・・・・・・・2
　第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・2

第３章　銀杏木遺跡の遺構と遺物
　第１節　遺跡の概要 ・・・・・・・・8
　第２節　遺構及び出土遺物 ・・・8

第４章　宮原遺跡の遺構と遺物
　第１節　遺跡の概要 ・・・・・・・・13
　第２節　遺構及び出土遺物 ・・・13
　第３節　調査のまとめ ・・・・・・・18

写真図版
調査報告書抄録

第１章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

平成４年度から長野県上小地方事務所により上田市塩田地区において畑地帯総合土地改良事業が実施されることとなった。これに伴い施工区域のうち前山工区分について農道建設が予定されたため、建設予定地内に位置する埋蔵文化財包蔵地「銀杏木遺跡」及び「宮原遺跡」で平成６年６月３日に試掘調査を行った。試掘の結果、灰釉陶器・弥生土器と共に竪穴住居と推定される遺構が確認されたため、保護協議を行い当該地区で工事が行われる平成 10 年度に本発掘調査を行うこととなった。

第２節　調査日誌(抄)

銀杏木遺跡

平成 10 年	６月 18 日～24 日	重機による表土剥ぎ
	６月 23 日～29 日	遺構検出作業・遺構掘り下げ
	６月 30 日	遺構測量用基準点・水準点取り付け準備
	７月　９日	遺構実測・現地調査終了

宮原遺跡

平成 10 年	７月 23 日～27 日	重機による表土剥ぎ
	７月 24 日～28 日	遺構検出作業
	７月 28 日～ ８月 11 日	遺構掘り下げ・写真撮影
	８月 18 日～19 日	航空写真撮影・実測、土器洗い
	８月 20 日～21 日	遺構実測・現地調査終了

平成 10 年　８月 25 日 ～平成 11 年３月 25 日	上田市埋蔵文化財整理室において断続的に遺物整理・報告書作成作業・刊行

第２章　遺跡の環境

第１節　自然的環境

上田市は長野県の東部、千曲川の中流域に開けた小盆地にある。市内のほぼ中央を千曲川が流れ、盆地は大きく東と西に分けられる。

東部は現在の上田市街地中心部を含む。市街地の北側は屏風状に屹立する太郎山脈により区切られる。西から虚空蔵山、太郎山、東太郎山が聳え立ち、その南斜面は急峻で山麓線は塩尻岩鼻の断崖から上野方面まで、直線的に平野部と接している。基盤は新生代第三紀内村層の緑色凝灰岩である。山麓には幾つもの扇状地が形成されており、太郎山と東太郎山の間の谷を水源とする黄金沢扇状地が最も発達している。段丘面は下から上田城跡および現上田市街地をのせるⅢ面、市街地東側の逆三角形をなす染屋台と呼ばれるⅡ面、その北側の虚空蔵山を中心とするⅠ面からなる。

西側は大きく浦野川流域の平坦地と塩田平に分かれる。浦野川流域は北西方向に大林山、子檀嶺(こまゆみ)岳、飯綱山、城山を含む川西山地があり、その間を田沢川、阿鳥川、室賀川が刻んでいる。南側は夫神(おがみ)岳から東へ延びる尾根状の川西丘陵によって塩田平と隔てられており、全体として東西に細長い谷平野を形成している。一方、川西丘陵の南側には塩田平が広がっている。周囲を夫神岳、女神岳、独鈷山、小牧山をはじめとする山々に囲まれ、北に向かって幅の狭くなる袋状の地形をしている。基盤は新生代第三紀の別所層・青木層・小川層と考えられ、この上部に第四紀更新世の泥岩・砂岩・礫岩から成る上小(じょうしょう)湖成層が堆積している。このことから、堆積当時の塩田平は湖沼であったことがうかがえる。現在は平野部を産川、湯川、尾根川等の小河川が流れているが、いずれも水源となる周囲の山系が浅いため水量に乏しい。また、当地方は寒暖の差が大きく、年間降水量の少ない内陸性気候を呈するため、塩田平では水を確保する必要上、古くから溜め池が築かれてきた。

今回調査を行った銀杏木・宮原遺跡は、この塩田平の南辺に位置し、産川支流の塩野川が形成した扇状地上に立地する。平野部が保水力の強い粘土質の土壌であるのに対し、本遺跡地は水はけの良い砂礫質土壌の上にある。

第２節　歴史的環境

銀杏木・宮原遺跡の立地する塩田平では、今のところ旧石器時代の遺跡は発見されていない。縄文時代草創期に属する遺跡も明確なものは確認されていないが、西前山では流紋岩製の有舌尖頭器が１点採集されている。早期では茅山式土器を出土した別所温泉の塩水遺跡・比蘭樹遺跡が知られている。前期の遺跡としては別所の北浦遺跡、前山地区の神戸遺跡、1985 年の調査で諸磯ｃ式期の土器・住居跡を検出した手塚地区の五反田・堰口ノ一遺跡がある。中期になると産川両岸の手塚・前山・新町・十人・本郷・五加の各地区に遺跡が見られる。そのうち代表的なものは新町地区の検田見遺跡（1961 年調査）で、中期中葉勝坂式期に属する土器を中心に、中期後葉の加曽利Ｅ式期に属する遺物、竪穴住居跡などが出土した。後期では五加地区で梨の木遺跡から堀之内式期の遺物が出土したほか、富士山地区の上大郷遺跡(1993 年調査)から４軒の竪穴住居跡・敷石住居跡が確認されている。晩期から弥生時代前期に至る時期においては宮の前遺跡(1992, 93 年調査)で土坑に伴う氷式土器の壷が出土している。また最下流の産川・浦野川合流点に立地する上田原遺跡(1994 年調査)、浦田遺跡(1996 年調査)においては条痕文系土器が発見されている。

弥生時代後期に入ると遺跡数は再び増加する。遺跡は産川流域をはじめとする中小河川の河岸段丘や自然堤防上に立地するものが多く、産川沿いでは枠木遺跡・西光坊遺跡が調査されている。追開沢川沿いの和手遺跡（1982 年調査）

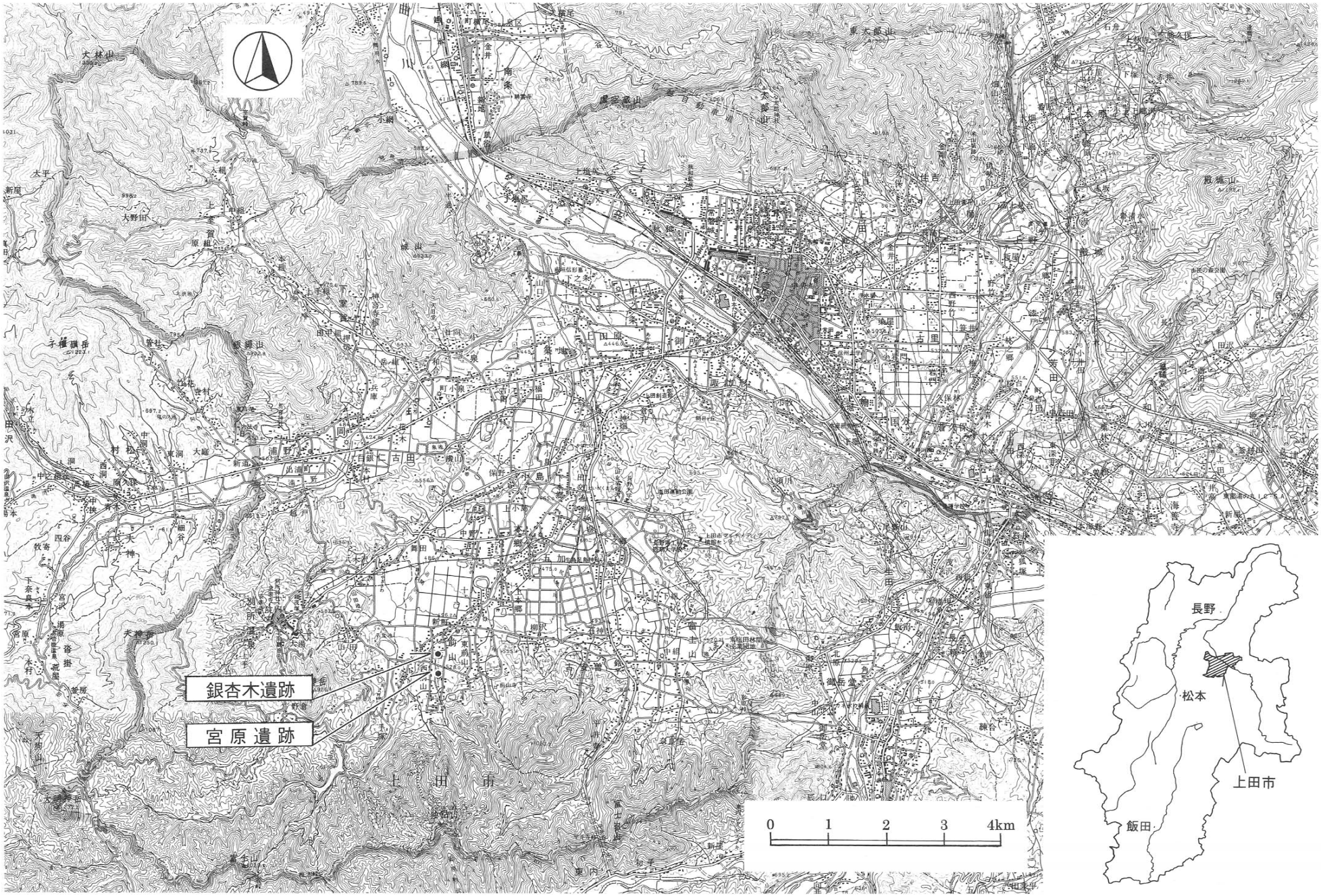


図１　上田市全体図および遺跡の位置

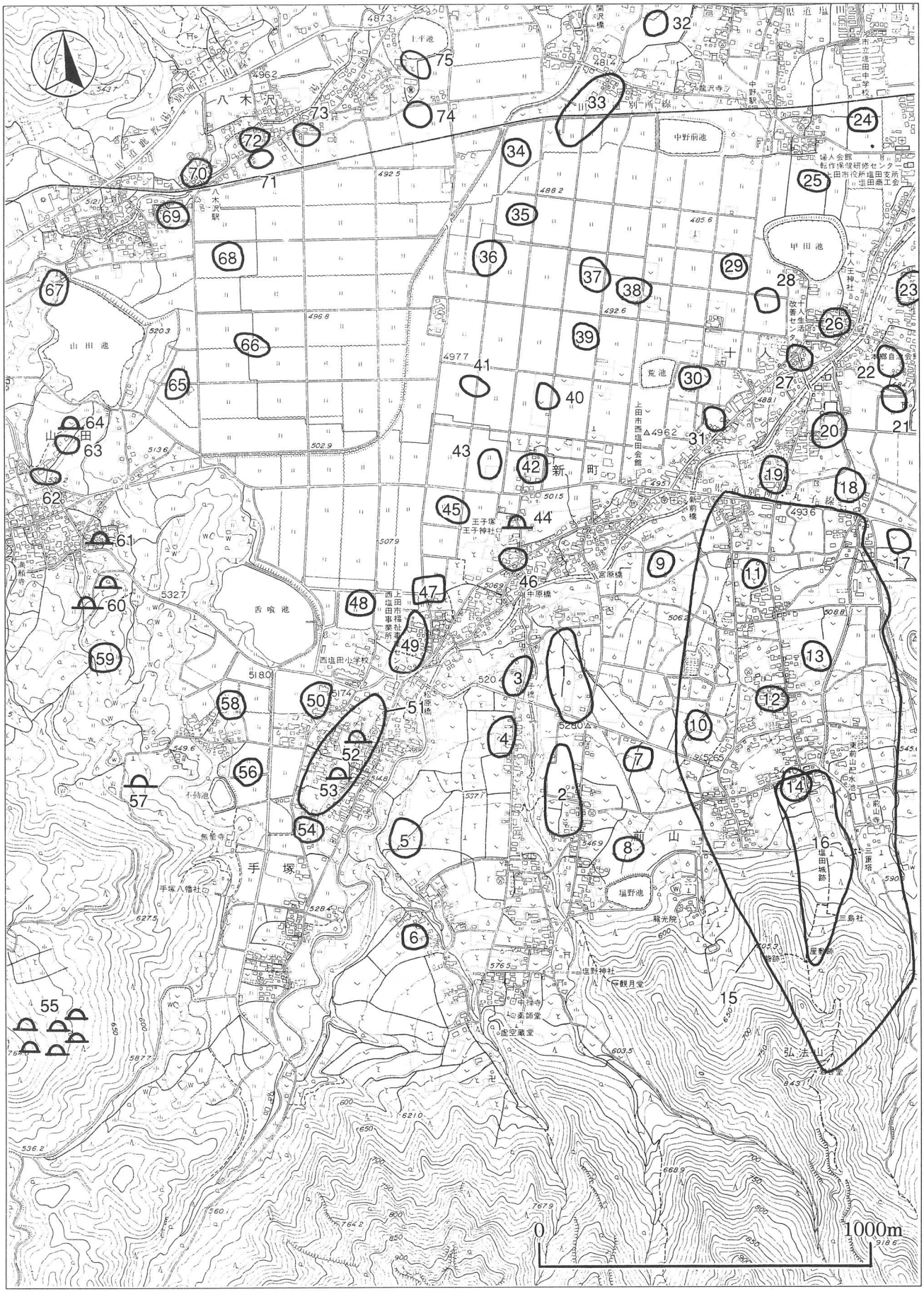


図２　周辺遺跡分布図

No.	遺跡名	時代	所在地	No.	遺跡名	時代	所在地
1	銀杏木遺跡	縄文～平安	前山字銀杏木	38	玉影遺跡	縄文～平安	十人字玉影
2	宮原遺跡	縄文～中世	前山字宮原	39	塚田遺跡	弥生～平安	手塚字塚田
3	下原遺跡	縄文～平安	前山字下原	40	細江場遺跡	縄文～平安	新町字細江場
4	中原遺跡	弥生～平安	前山字中原	41	東長畑遺跡	縄文～平安	手塚字東長畑
5	東馬場遺跡	縄文～平安	前山字東馬場	42	中村遺跡	縄文～平安	新町字中村
6	西馬場遺跡	平安	前山字西馬場	43	縄手遺跡	平安	手塚字縄手
7	入海道遺跡	平安	前山字入海道	44	王子塚古墳	古墳	新町字王子
8	塩野間遺跡	平安	前山字塩野間	45	堰口ノ二遺跡	弥生～平安	手塚字堰口ノ二
9	箱田遺跡	弥生～平安	前山字箱田	46	王子遺跡	弥生～平安	新町字王子
10	中島遺跡	弥生・平安	前山字中島	47	手塚居館址	中世	手塚字堰ノ口
11	道成遺跡	縄文～平安	前山字道成	48	五反田遺跡	縄文～弥生	手塚字五反田
12	立町遺跡	縄文～平安	前山字立町	49	堰口ノ一遺跡	縄文～平安	手塚字堰口ノ一
13	上神戸遺跡	縄文～平安	前山字上神戸	50	西紺屋村遺跡	縄文～平安	手塚字西紺屋村
14	上町遺跡	縄文・平安	前山字上町	51	東紺屋村遺跡	縄文～平安	手塚字東紺屋村
15	塩田城跡	中近世	前山字上町	52	東紺屋村経塚	近世	手塚字東紺屋村
16	塩田城跡 (長野県史跡)	中近世	前山字上町	53	ｸﾁｱｹ塚古墳	古墳	手塚字滝沢
				54	樋の口遺跡	縄文～平安	手塚字樋の口
17	大道上遺跡	平安	古安曽字大道上	55	六部塚古墳群	古墳	野倉字ジッカフ
18	下城戸遺跡	縄文～平安	前山字下城戸	56	滝沢遺跡	平安	手塚字滝沢
19	藤の木遺跡	縄文～平安	前山字藤ノ木	57	皇子塚古墳	古墳	手塚字王子塚
20	甲田遺跡	平安	前山字甲田	58	金井遺跡	弥生	手塚字金井
21	枠木遺跡	弥生～平安	上本郷字枠木	59	上打越遺跡	縄文	山田字上打越
22	諏訪畑遺跡	縄文～平安	上本郷字諏訪畑	60	上の山古墳	古墳	山田字下打越
23	西村遺跡	縄文	上本郷字西村	61	ビワ塚古墳	古墳	山田字下打越
24	新田遺跡	平安	中野字新田	62	西村遺跡	平安	山田字西村
25	池の下遺跡	平安	十人字池の下	63	竹の裏遺跡	縄文・平安	山田字竹の裏
26	下村遺跡	弥生～平安	十人字下村	64	横山塚古墳	古墳	山田字竹の裏
27	中村遺跡	弥生～平安	十人字中村	65	原田遺跡	弥生・平安	山田字原田
28	前田遺跡	平安	十人字前田	66	塚田遺跡	弥生・平安	山田字塚田
29	古屋敷遺跡	縄文・平安	十人字古屋敷	67	池田口遺跡	平安	八木沢字池田口
30	軒民遺跡	縄文～平安	十人字軒民	68	塚田遺跡	平安	八木沢字塚田
31	検田見遺跡	縄文～平安	前山字検田見	69	馬場遺跡	弥生・平安	八木沢字馬場
32	鍛冶屋敷遺跡	縄文	中野字鍛冶屋敷	70	砂畑遺跡	弥生・平安	八木沢字砂畑
33	和手遺跡	平安	中野字和手	71	上丸田遺跡	縄文	八木沢字上丸田
34	加生遺跡	縄文・弥生	十人字加生	72	表田中遺跡	平安	八木沢字表田中
35	西沖遺跡	平安	十人字西沖	73	中丸田遺跡	縄文	八木沢字中丸田
36	加生遺跡	縄文・弥生	十人字加生	74	柳堂遺跡	平安	八木沢字柳堂
37	深町遺跡	縄文～平安	新町字深町	75	上平遺跡	平安	中野字上平

周辺遺跡一覧表

では箱清水式期の住居跡２１軒と共に多量の遺物が出土し、良好な資料を提供している。湯川流域ではその支流腰巻川沿いの宮の前遺跡(1992,93 年調査)で後期後半から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡・掘立柱建物跡が確認されている。一方、下之郷集落の東側、尾根川・駒瀬川合流点に立地する天神遺跡（1974 年調査）では竪穴住居跡２３軒が検出された。また塩田平への入口にあたる浦田遺跡では多量の石包丁とその未製品が発見されている。集落内で製作・使用されていたことを物語るものであり注目される。

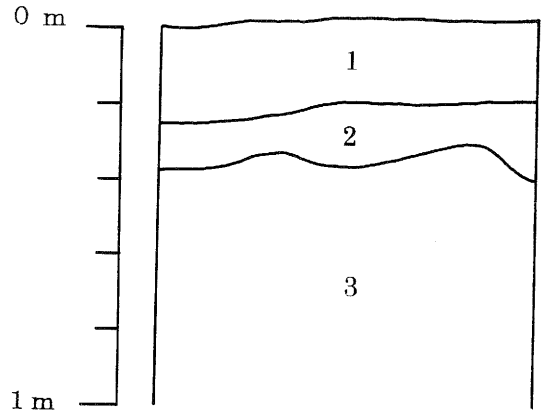
古墳時代に当たる遺跡としては枠木遺跡・西光坊遺跡・宮の前遺跡がある。いずれも弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれた遺跡であり、東海系のＳ字状口縁台付甕・北陸系土器を出土している。またこの古墳時代には塩田平一帯で多くの古墳が築かれている。このうち、銀杏木・宮原遺跡の北、新町の王子神社境内には王子塚古墳がある。南北 32.5m、東西 34.2m、高さ６ｍを測り、塩田平最大・最古の帆立貝式古墳（前方後円墳の可能性もある）である。また、産川を挟んで西方には皇子塚古墳があり、径 13m、高さ 2.5mを測る後期の円墳である。一方、長野大学の北側から東側にかけての小牧山丘陵地には下之郷古墳群がある。後期の群集墳であり、このうち他田塚（おさだづか）古墳・塚穴原１号墳は発掘調査の結果、６世紀後半に位置づけられている。

奈良・平安時代になると上田地方には官道である東山道が通り、信濃国分寺が建立され、当時信濃国の中心地になっていたことがうかがえる。この時期の遺跡として、天神遺跡・枠木遺跡・西光坊遺跡・宮の前遺跡があり竪穴住居跡・掘立柱建物跡が確認されている。保野地区の中井遺跡でも掘立柱建物跡・井戸跡が検出された。

中世に入ると鎌倉時代中期に幕府の重臣北条義政がこの塩田の地に館を構えている。その後当地方は村上氏の支配するところとなり、配下の福沢氏が塩田城を固めている。塩田城はついで武田信玄の支配下となり戦国時代まで機能していたと考えられており、現在城跡は長野県史跡に指定されている。1975 年から３カ年にわたり調査が行われ礎石を伴う建物跡・溝跡・敷石遺構などが発見された。遺物では土師質土器・陶器・磁器・将棋の駒・木製人形などがみられたが、調査は城跡全体のごく一部であり、全容の解明は今後に負うところが大きい。

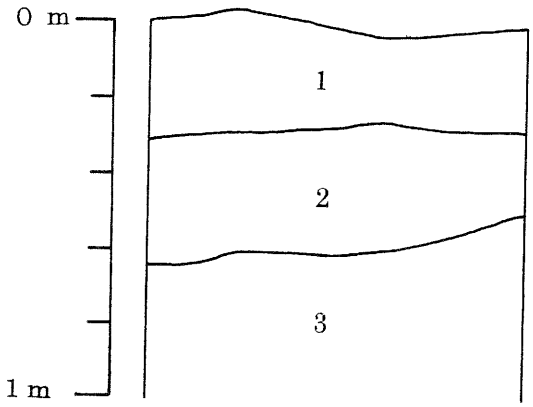
また、この塩田城を中心とした周辺には鎌倉・室町時代と考えられる文化財が集中し、前山寺・中禅寺・安楽寺・常楽寺・生島足島神社には当時の建造物・美術品等が残されており、いずれも国宝・重要文化財に指定されている。

図３ 銀杏木遺跡基本層序



１：表土
２：黒褐色土 10YR 2/2
（礫を多く含む）
３：砂質褐色土 10YR 4/6
（指頭大～拳大の礫を含む）

図４ 宮原遺跡基本層序



１：表土
２：黒褐色土 10YR 3/1
（指頭大～拳大以上の礫を多く含む）
３：褐色砂礫土層 10YR 4/4

図５　調査範囲（北側・銀杏木遺跡　南側・宮原遺跡）

第３章　銀杏木遺跡の遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

銀杏木遺跡は独鈷山南麓の塩野川によって形成された扇状地上に位置する。遺跡周辺は北に向かって緩やかに傾斜し、西側は塩野川の下刻作用で扇状地地形に谷を生じている。このため調査地点付近は土壌の堆積が進まず、安定した環境を保っている。

検出面は現地表から浅いレベルにあり、基本層序（６頁・図３参照）の１層（表土）から３層上面にかけて遺構が掘り込まれている。

検出された遺構は、竪穴住居跡１、掘立柱建物跡１、溝跡１、土坑７、流路跡２であり、遺構の状況から本調査地点は銀杏木遺跡の中心部よりやや東に外れた位置に当たるものと推定された。

遺物は全て竪穴住居跡から出土しており、土師器坏・椀・甕、羽釜、灰釉陶器、須恵器甕、刀子、砥石が確認された。平安時代中頃（10 世紀後半～11 世紀前半）のものと考えられる。また、中世の青磁破片が周囲の畑地で表面採集された。

第２節　遺構および出土遺物

（１）　竪穴住居跡

検出遺構：調査区中央付近にある。表土剥ぎを遺跡の緩斜面に沿って行ったため北側の一部を失った。覆土は黒色土(10YR 2/1)一層で、親指大の礫を含む。貼り床はなく、地山を掘り込み直接床面としている。住居跡南東隅には不整形な掘り込みがあり、坏(1)が出土した。また、この上部には比較的大きな礫がかたまって確認された。掘り込み北側の床面からは刀子(22)が出土している。このほか、覆土中から土師器坏(2～6)・椀(7～13)、灰釉皿(14)、灰釉段皿(15)、土師器甕(16)、羽釜(17、18)、須恵器甕片(19、20)、砥石(21)が出土した。

および出土遺物

時　　期：出土土器から平安時代中期（10 世紀後半～11 世紀前半）と推定される。

（２）　掘立柱建物跡

検出遺構：調査区南寄りにある。２間分が検出された。出土遺物はなく、時期も不明である。

（３）　溝跡

検出遺構：調査区やや北寄りにある。緩斜面の等高線と平行に東西方向へのびる。検出面で幅約１ｍ、深さ約 26ｃｍである。覆土は黒褐色(10YR 3/1)一層で黄褐色土(10YR 5/8)を含む。溝跡中央に沿って礫が出土している。出土遺物はなく、時期も不明である。

（４）　流路跡

検出遺構：調査区南端にある。南西から北東に向けて２本平行しており、いずれも指頭大～拳大の礫を含む褐色砂質土(10YR 4/4)が堆積していた。自然の流路跡と考えられる。

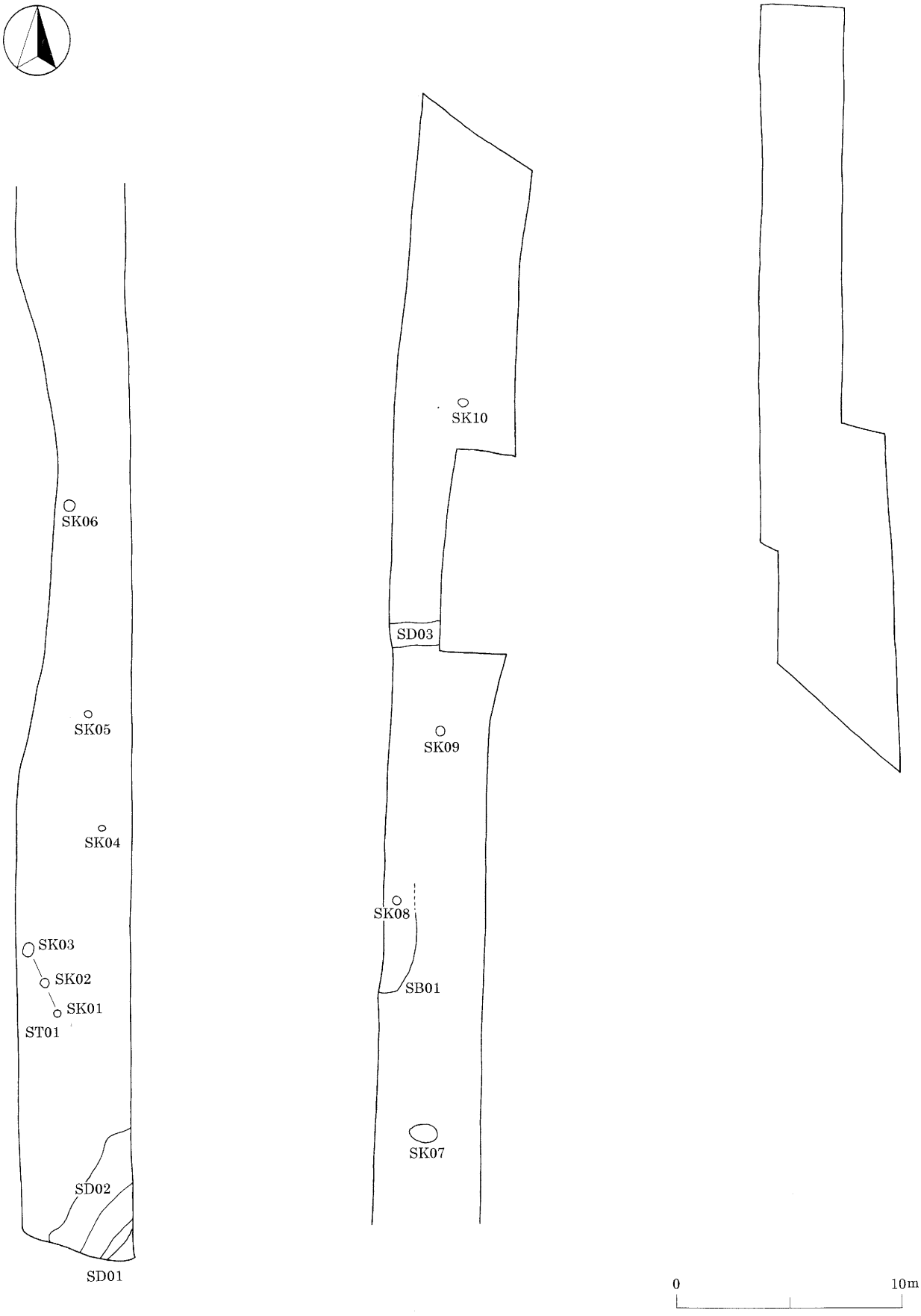
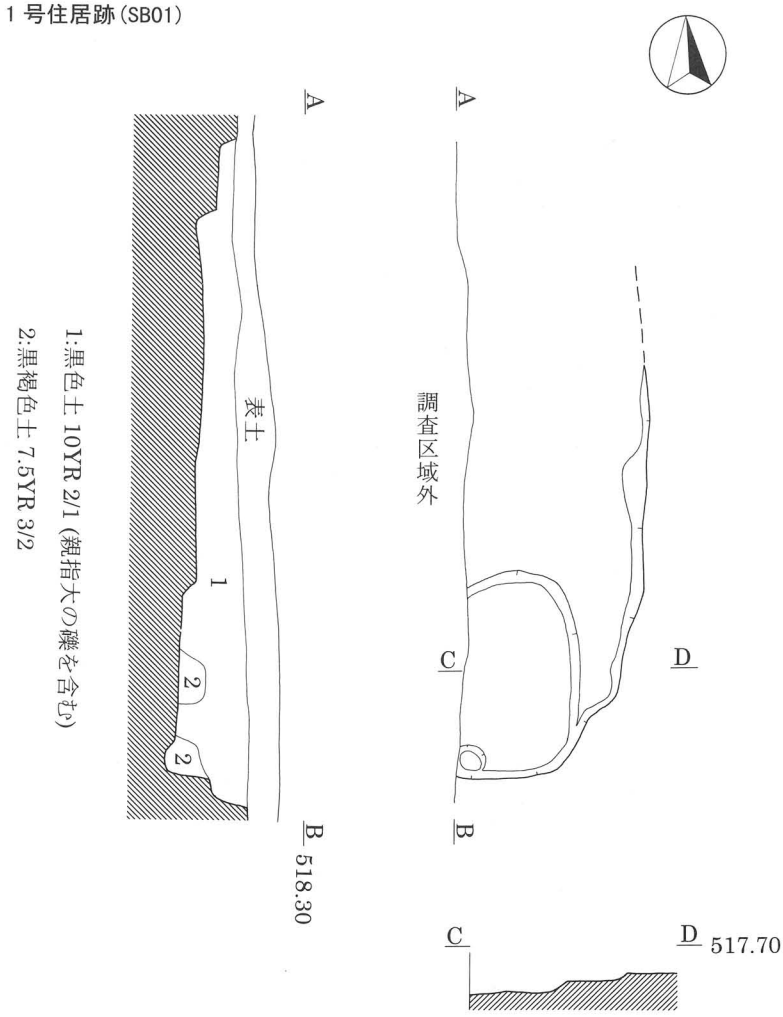
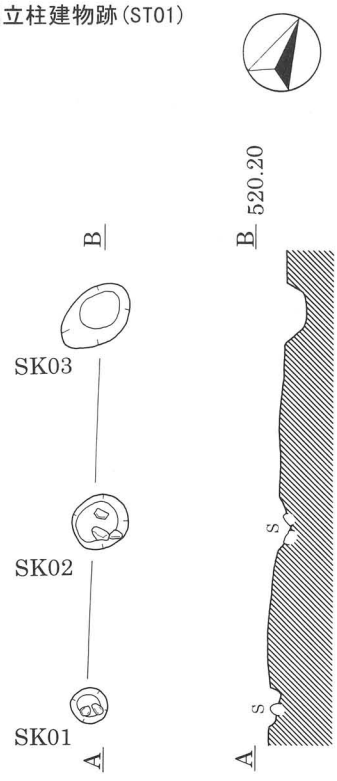

SK10
SK06
SD03
SK05
SK09
SK04
SK08
SK03
SB01
SK02
SK01
ST01
SK07
SD02
SD01
0
10m

図６ 銀杏木遺跡全体図

1号住居跡(SB01)



1号掘立柱建物跡(ST01)



3号溝跡(SD03)

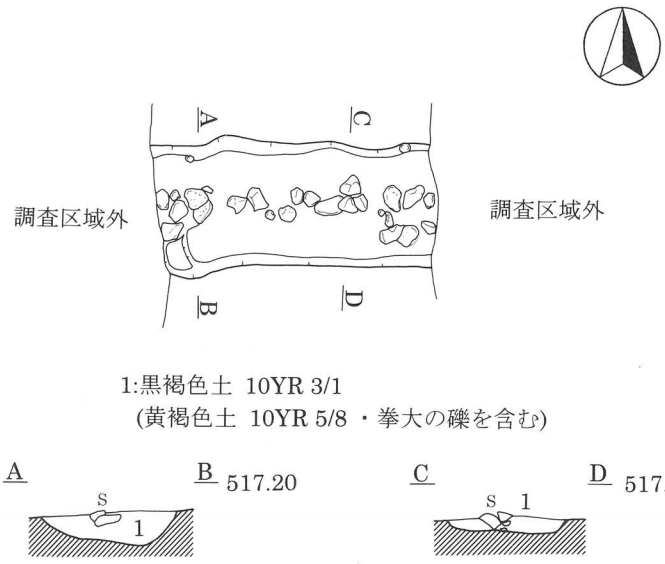


図7　1号住居跡・1号建物跡・3号溝跡

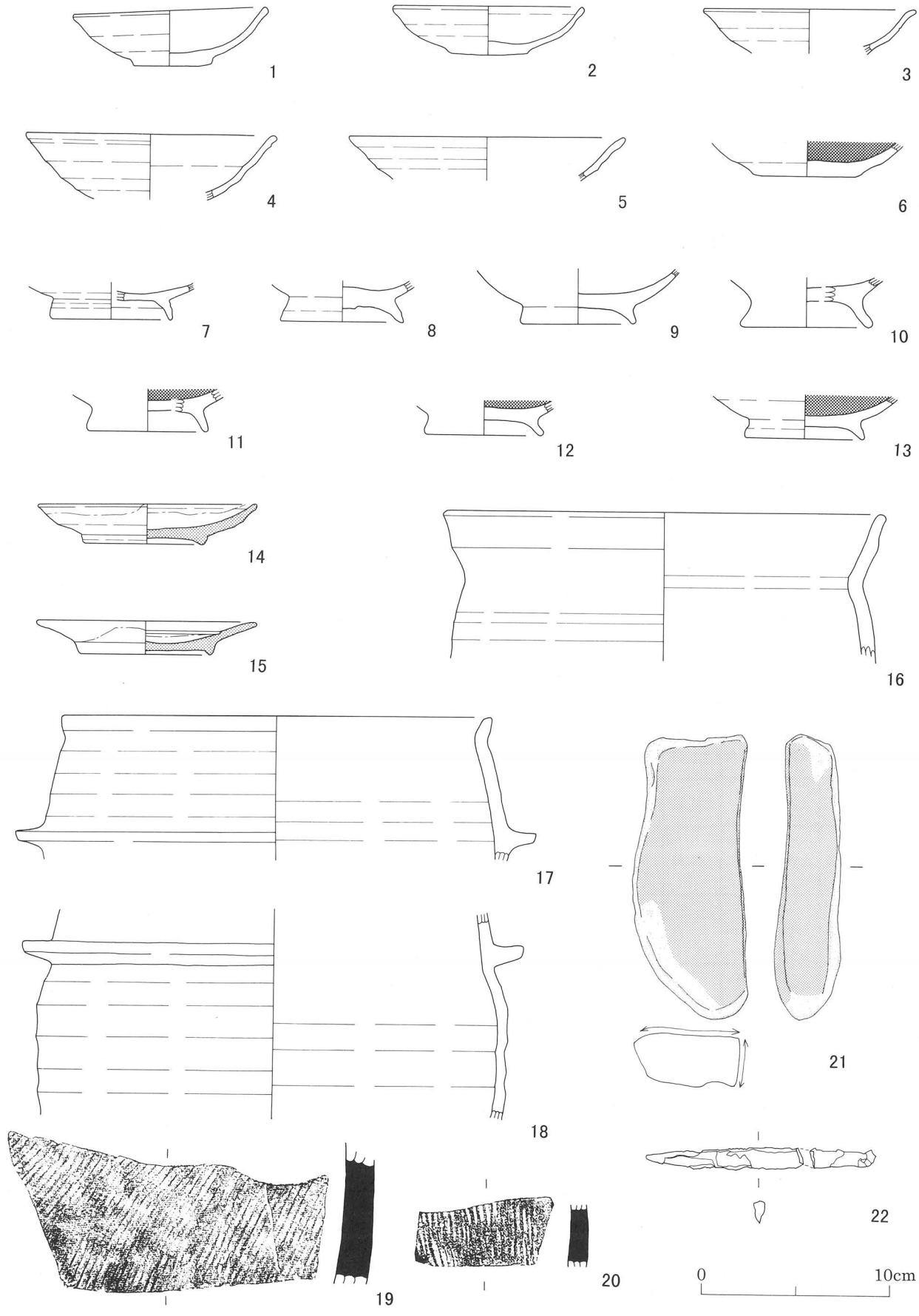


図８　銀杏木遺跡出土遺物

銀杏木遺跡　土器観察表

No.	出土遺構	器種	種類	残存率	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
1	SB01	坏	土師	完形	10.6	4.3	2.8	2.5YR 6/6 橙	砂粒・褐色粒子 1～2㎜レキ	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
2	SB01	坏	土師	1/5	(10.1)	(4.4)	2.6	2.5YR 6/6 橙	砂粒少	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	底部糸切り
3	SB01	坏	土師	口縁1/4	(11.2)	－	－	7.5YR 6/6 橙	砂粒・長石 黒雲母	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
4	SB01	坏	土師	1/5	(13.1)	－	－	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒・褐色粒子	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
5	SB01	坏	土師	口縁1/5	(14.6)	－	－	7.5YR 5/1 褐灰	砂粒 1～2㎜レキ	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
6	SB01	坏	土師	底部	－	5.5	－	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒・褐色粒子 1～2㎜レキ	良好	ロクロ調整	黒色処理 ロクロ調整	底部糸切り
7	SB01	椀	土師	底部1/2	－	6.3	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・褐色粒子	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	貼付高台
8	SB01	椀	土師	底部	－	6.5	－	10YR 7/4 にぶい黄橙	粗砂粒多・長石 石英・1～2㎜レキ	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	貼付高台
9	SB01	椀	土師	底部	－	5.9	－	10YR 7/4 にぶい黄橙	粗砂粒多・長石 黒雲母・石英	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	貼付高台
10	SB01	椀	土師	底部1/2	－	(6.7)	－	10YR 6/4 にぶい黄橙	砂粒・褐色粒子	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	貼付高台
11	SB01	椀	土師	底部1/2	－	(6.2)	－	5YR 6/4 にぶい橙	砂粒・長石	良好	ロクロ調整	黒色処理 ロクロ調整	貼付高台
12	SB01	椀	土師	底部1/2	－	(6.2)	－	7.5YR 7/4 にぶい橙	粗砂粒多・長石 黒雲母・石英	良好	ロクロ調整	黒色処理 ロクロ調整	回転糸切り後、高台貼付
13	SB01	椀	土師	底部	－	(6.2)	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・長石 褐色粒子	良好	ロクロ調整	黒色処理 ロクロ調整	貼付高台
14	SB01	皿	灰釉	底部1/2	11.5	6.2	2.1	5Y 灰白 7/1	緻密	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り後、高台貼付
15	SB01	段皿	灰釉	底部1/3	(11.5)	(6.9)	1.8	5Y 灰白 7/1	緻密	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	貼付高台
16	SB01	甕	土師	口縁破片	(23.1)	－	－	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒・長石	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
17	SB01	羽釜	土師	口縁破片	(22.8)	－	－	10YR 6/4 にぶい黄橙	粗砂粒多・ 1～3㎜レキ 石英粒を 多量に含む	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
18	SB01	羽釜	土師	胴部1/4	－	－	－	5YR 5/4 にぶい赤褐	粗砂粒多・ 1～7㎜レキ 石英粒を 多量に含む	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
19	SB01	甕	須恵	胴部破片	－	－	－	N 4/0 灰	砂粒	良好	タタキメ	ナデ	
20	SB01	甕	須恵	胴部破片	－	－	－	N 5/0 灰	砂粒	良好	タタキメ	タタキメ	

銀杏木遺跡　石器観察表

No.	出土遺構	器種	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	材質	備考
21	SB01	砥石	石器	15.1	5.9	3.4	458	砂岩	

銀杏木遺跡　鉄製品観察表

No	出土遺構	器種	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	材質	備考
22	SB01	刀子	鉄器	(11.7)	1.1	0.5	(11.5)	鉄	

第４章　宮原遺跡の遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

宮原遺跡は銀杏木遺跡から約４００ｍ南、独鈷山南麓の塩野川によって形成された扇状地上に位置する。遺跡周辺は北に向かって緩やかに傾斜し、西側は塩野川の下刻作用で扇状地地形に谷を生じている。このため調査地点付近は土壌の堆積が進まず、安定した環境を保っている。

検出面は浅いところでは現地表から約２０ｃｍ程度で確認することができる。遺構は基本層序（６頁・図４参照）の１層（表土）から３層上面にかけて掘り込まれている。また、遺構上部は現耕作によって攪乱を受けており、特に調査区域のうち北側３分の１は、薬用人参の栽培による深耕が影響して検出に困難が伴った。

検出された遺構

竪穴住居跡５、掘立柱建物跡１、溝跡１、土坑墓２、竪穴状遺構１、土坑３５

出土遺物

土　器：縄文中・後期土器片、弥生後期箱清水式土器、古墳初頭～前期土師器、平安時代土師器・須恵器、中世内耳土器・土師質土器皿

石　器：石鏃、台石兼砥石　　石製品：管玉、ガラス小玉　　鉄製品：刀子　　石材：碧玉（管玉未製品）

第２節　遺構および出土遺物

（１）竪穴住居跡

１号竪穴住居跡(SB01)

検出遺構：調査区中央に位置する。表土剥ぎを遺跡の緩斜面に沿って行ったため、北側の一部を失う結果となった。しかし、西側調査区域境の土層断面では、緩やかに立ち上がる壁面がみられた。住居跡の平面形態は隅丸(長)方形と思われる。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、礫・若干の炭化物を含む。貼り床はなく、地山を掘り込み直接床面としている。主柱穴が 2 箇所検出され、その間に地床炉が設けられていた。またこの西側床面上に薄い焼土の広がりが見られた。

出土遺物：箱清水式の小型甕(１)・鉢(２)が出土した。

時　　期：出土遺物から弥生時代後期と考える。

２号竪穴住居跡(SB02)

検出遺構：調査区中央に位置する。北側は耕作による攪乱で失われている。覆土は黒色土(10YR 2/1)一層で、指頭大～拳大の礫・若干の炭化物を含む。床面は黄褐色土を堅く叩き締めていた。壁面は比較的急に立ち上がる。主柱穴が 2 箇所検出され、その間に地床炉が設けられていた。また、この西側に隣接して焼土の厚い堆積がみられ、上部は硬化が著しかった。

出土遺物：箱清水式の壷（３・４）、甕（５～8）、高坏（9 ・ 10）、鉢(11)、深鉢(12)、縄文時代後期の土器片(30)、

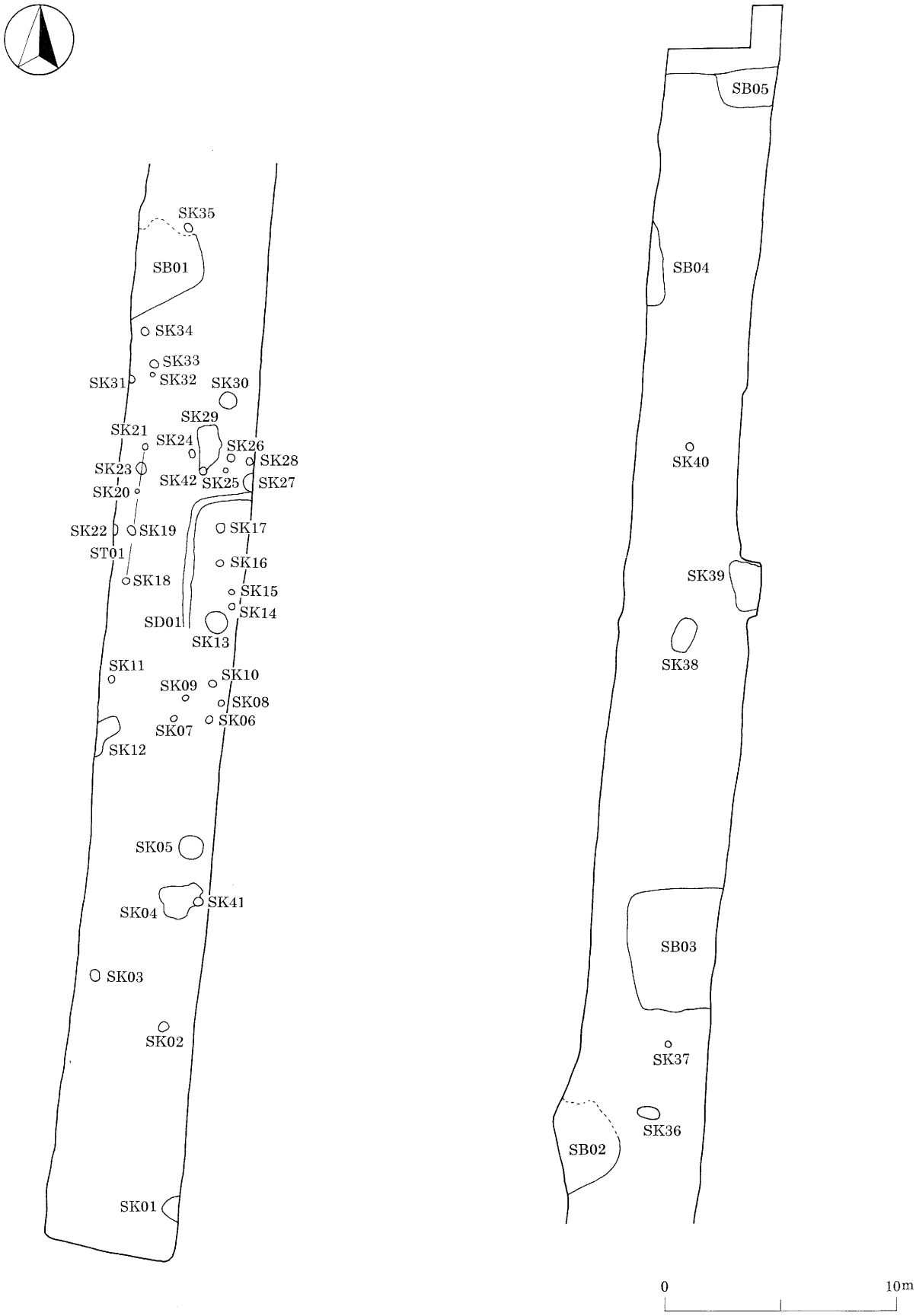

SK35
SB01
SK34
SK33
SK31
SK32
SK30
SK29
SK21
SK24
SK26
SK28
SK23
SK42
SK25
SK27
SK20
SK22
SK19
SK17
ST01
SK16
SK18
SK15
SK14
SD01
SK13
SK11
SK10
SK09
SK08
SK07
SK06
SK12
SK05
SK04
SK41
SK03
SK02
SK01
SB05
SB04
SK40
SK39
SK38
SB03
SK37
SK36
SB02
0
10m

図９ 宮原遺跡全体図

石鏃(37)が出土している。

時　　期：出土土器から弥生時代後期と考える。

3号竪穴住居跡(SB03)

検出遺構：調査区中央やや北寄りに位置する。平面形態は隅丸長方形と思われる。南北5.3mである。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、褐色土(10YR 4/6)・親指大の礫・若干の炭化物を含む。貼り床はなく、地山を掘り込み直接床面としている。壁面の残りはよく、ほぼ垂直に立ち上がる。住居跡中央の東側調査区域境付近に僅かに焼土がのぞいていることから、区域外に地床炉があるものと思われる。主柱穴(P1、P2)のほか、出入り口施設に関係すると思われるP3がある。貯蔵穴と思われるP4は住居跡壁面から若干張り出す形で掘り込まれており、その中から大型の甕(14)が口縁を壁面に向け横倒しのまま出土した。また、P3・P4に挟まれた位置では床面が若干凹んでおり、この凹みに貼りつく様に4点の碧玉（管玉未製品）がかたまって出土した。(巻頭カラー参照)

出土遺物：箱清水式の壷(13)、甕(14～20)、高坏(21)、台付深鉢(22)、台石兼砥石(38)、碧玉（管玉未製品）(39～42)、刀子(48)のほか、覆土中から縄文時代後期の土器片(31～35)が出土している。38は両面に磨面と線状痕がみられるほか、一部に打痕がある。

時　　期：床面直上で出土した小型甕(17)およびP4出土の大型の甕(14)等から弥生時代後期と推定される。覆土中の縄文後期土器片は混入と捉えた。

4号竪穴住居跡(SB04)

検出遺構：調査区北部に位置する。住居跡のごく一部が調査区域にかかっただけであるので全体の形状はつかめないが、おそらく隅丸(長)方形を呈するものと考えられる。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、指頭大～拳大の礫・若干の炭化物を含む。貼り床はなく、地山を掘り込み直接床面としている。壁面は比較的急な傾斜で立ち上がる。

出土遺物：器面を薄く仕上げた武蔵型の甕(23)が床面に接して押し潰された状態で出土したほか、須恵器の底部破片が出土している。

時　　期：出土遺物から平安時代初頭と考える。

5号竪穴住居跡(SB05)

検出遺構：調査区北端に位置する。耕作による土壌の攪乱が著しく当初の検出作業では確認できなかった。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、指頭大～拳大の礫を含む。掘り下げの結果、P1と偏平礫を伴うP2が床面から検出された。貼り床はなく、地山を掘り込み直接床面としていた。

出土遺物：遺物の出土はなかった。

時　　期：不明

（2）掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡(ST01)

検出遺構：調査区中央やや南寄りに位置する。柱列が3間分出土した。規模は5.9mである。

出土遺物：遺物の出土はなかった。

時　　期：不明

（３）溝跡

１号溝跡(SD01)

検出遺構：ＳＴ０１の東側に位置する。北側で直角に曲がり、東側調査区域外へ延びている。南側は耕作による攪乱で失われている。調査により確認された部分では、長さ 7.9m、幅 26～36ｃｍ、深さ 14ｃｍである。覆土は褐灰色土(10YR 4/1)一層で、指頭大～拳大の礫・若干の炭化物を含む。

出土遺物：土器細片が出土したのみである。

時　　期：不明

（４）土坑墓

ＳＫ０５

検出遺構：調査区南寄りに位置する。平面は 122×93cm、深さ 54cm の楕円形を呈する。断面形態では西側が深く掘り込まれている。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、にぶい黄褐色土(10YR 4/3)・指頭大の礫・炭化物含む。西寄り上部で人骨頭部が検出された。全体に風化が著しかったが、顔面を東側に向けていた。頭部付近からは管玉１点(46)・ガラス小玉２点(44、45)が出土した。（巻頭カラー参照）また、人骨は頭部の一部を除いて風化のため遺存しなかった。

出土遺物：覆土中からは土師器甕(24)が出土したほか、同様のハケ調整の甕破片が確認された。いずれも全形を復元できるものはなかった。石器では石鏃(43)が出土した。

時　　期：副葬品と思われる土器は確認されなかったが、覆土中出土の土師器から本土坑墓は古墳時代初頭にあたると考える。

ＳＫ３８

検出遺構：調査区北寄りでＳＫ３９に隣接する。平面は 153×92cm、深さ 55cm の不整な長方形をなす。断面形態は逆台形である。覆土は黒色土(10YR 2/1)の一層で、黄褐色土(10YR 5/6)・親指大の礫・若干の炭化物を含む。本土坑からは特に人骨などの出土はなかったが、平面および断面形態から土坑墓の可能性があると考えた。

出土遺物：石鏃(47)が出土したのみである。

時　　期：不明。

（５）竪穴状遺構

ＳＫ３９

検出遺構：調査区北寄りでＳＫ３８に隣接する。一部調査区域外へのびる。上部は耕作によって撹乱されていたため、検出段階から礫が露呈していた。中央に礫の集中があり、その隙間から内耳土器片が出土している。覆土は褐灰色土(10YR 4/1)一層であった。礫の大きさは主として拳大以上のもので構成され、最大で 45ｃｍを測る。石材はそのほとんどが独鈷山起源の石英安山岩・輝石安山岩であった。また、一部に黒く煤けた礫がみられた。遺構の平面形は若干歪んだ方形を呈する。底部は礫の集中した部分が深く、周囲に向かうにつれて次第に浅くなる。また、底部は一様に平坦ではなく、凹凸がある。

出土遺物：内耳土器(25、26、27)・土師質土器皿(28)が出土した。

時　　期：中世（室町時代）15～16 世紀と考える。

（6）土坑

土坑は３５基検出されている。このうち、主なものについて記述する。

ＳＫ０１

検出遺構：区域外にかかるため全形は不明である。深さ 45cm である。覆土は黒色土(10YR 2/1)で、褐色土(10YR 4/6)・指頭大の風化礫を含む。土色・土質とも他の遺構と異なり、黒色の度合いが強い。

出土遺物：縄文中期の土器片(29)と黒耀石剥片が出土した。

時　　期：縄文時代中期の遺構と考える。

ＳＫ０２・０３

検出遺構：ＳＫ０２は径 44×36cm、深さ 34cm、ＳＫ０３は径 50×50cm、深さ 24cm である。覆土はいずれも黒褐色土(10YR 3/1)で拳大の礫を含む。ＳＫ０２から古墳時代前期のものと思われる甕口縁部破片が出土している。相互に関連した柱穴とみられる。

ＳＫ０４

検出遺構：ＳＫ０５に隣接する。平面形態は不整形で径 218×153cm、深さ 10～33cm である。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)で、拳大以上の礫が混在していた。遺構の性格およびＳＫ０５との関係は不明である。

出土遺物：古墳時代初頭～前期と思われる土師器破片が出土した。

時　　期：古墳時代初頭～前期と考える。

ＳＫ１２

検出遺構：全体に不整形で底面にも凹凸がある。覆土は灰褐色土(10YR 4/1)で、にぶい黄褐色土(10YR 5/4)・礫を含む。出土遺物はなく、時期も不明である。

ＳＫ１３

検出遺構：径 98×80cm、深さ 32cm の楕円形。覆土は灰褐色土(10YR 4/1)で礫を含む。出土遺物はなく、時期も不明である。

ＳＫ２３

検出遺構：径 62×40cm、深さ 14cm の楕円形。覆土は灰褐色土(10YR 4/1)で礫を含む。

出土遺物：内耳土器の胴部破片が出土した。

ＳＫ２７

検出遺構：平面は径 80cm、深さ 16cm。覆土は灰褐色土(10YR 4/1) で礫を含む。

出土遺物：内耳土器の底部破片が出土した。

ＳＫ２９

検出遺構：長径 210cm×短径 94cm、深さ 20cm の不整形。南側が一段高くなっている。覆土は灰褐色土(10YR 4/1) で礫を含む。出土遺物はなく、時期も不明である。

SK30

検出遺構：径 78×74cm、深さ 20cm の円形。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)で拳大の礫を含む。出土遺物はなく、時期も不明である。

SK36

検出遺構：径 96×50cm、深さ 15cm の長楕円形。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)で拳大の礫を含む。出土遺物はなく、時期も不明である。

SK40

検出遺構：平面 38×35cm、深さ 39cm である。覆土は灰褐色土(10YR 4/1) で、黄褐色土・若干の炭化物・礫を含む。

出土遺物：内耳土器の底部破片が出土した。

第3節　調査のまとめ

3号住居跡出土の碧玉資料について

碧玉(へきぎょく)は弥生時代～古墳時代にかけて石製装身具である管玉に好んで使用された石材である。県内では緑色凝灰岩ないし碧玉質石材を使って管玉製作の行われた遺跡が千曲川流域の東北信一帯に確認されている。代表的な遺跡としては長野市小島境遺跡、丸子町社軍神遺跡、長門町中道遺跡、望月町後沖遺跡等がある。また上田市岳の鼻遺跡でも玉作り工作ピットとみられる遺構を伴う住居跡や、緑色凝灰岩の剥片を出土する竪穴状遺構が確認されている。これらはいずれも古墳時代に属する。弥生時代に属するものでは大町市中城原遺跡、長野市篠ノ井遺跡群高速道地点等が玉作り遺跡の可能性の高いものとして報告されているが、原石・石核・剥片を出土した住居跡には玉作りに関連した施設と確定できるものは確認されていない。古墳時代においても玉作り関連施設を伴わない住居跡内から原石・石核・剥片が出土していることから、一般の住居跡についても一時的に製作が行われた可能性が考えられている。(註１)

今回の調査では３号竪穴住居跡から碧玉資料が４点(39～42)出土した。出土位置はP3、P4に挟まれた床面の若干凹んだ部分である。床面上にまとまって発見されたことから、これらの遺物は意識的に置かれていたものと考えることができる。石材は硬質・緻密である。(巻頭カラー参照) このうち39・40は不整形ながらもそれぞれ直方体・角柱状をなす。40は一端に自然面を残すほか、節理面が多く観察される。いずれも四角柱状の石片を作出する意図がうかがえる。41は三角柱状をなす。１面を除いて比較的大きな１～３枚程度の剥離面からなり、右側面と裏面は節理面に沿って剥離されたものである。42は剥片であり、一部に自然面を残している。剥離の最終段階で正面左上を打面として裏面側に数回の剥離を行っている。また、この４点相互の接合はなかった。

宮原遺跡ではこの４点の碧玉が出土した３号住居跡は、調査を行った部分に関する限り特殊な施設はみられなかった。また玉作りに直接結びつくような剥片・製作工具類などの遺物も確認されなかったが（註２)、上述のとおり特殊な施設を持たない住居跡での玉作りの可能性も指摘できることから、本遺跡においても碧玉を素材とした管玉作りを行おうとしていた可能性がある。新潟県下谷地遺跡で復元された管玉作りの製作工程を参考にすると、39・40については全体的に形は整っていないが第２工程の板状剥片段階にある管玉未製品と考えられる。41は第１工程にある石核とみられる。(註３) 42の剥片についても他の３点の遺物と共に出土したことから、何らかの玉作り用（または石器製作用）石材として認識されていたものであろう。

なお、住居跡出土土器はいずれも弥生時代後期箱清水式期に属し、外来系土器を伴わない。

土坑墓（ＳＫ０５）について

平面形態が楕円形を呈し、断面は西側に深く掘り込まれている。頭蓋骨が西寄り上部から検出され歯骨・鼻骨付近の遺存状況から頭部は顔面を東側に向けていることが確認された。頭部以外の遺存が全く確認できなかったことから断定はできないが、頭蓋骨の出土位置から推測して埋葬姿勢は座位と考えられる。また歯骨の出土した位置の若干下部において管玉(46)、ガラス小玉(44、45)が出土しており、埋葬当初から装着していたものと推定される。

中世の遺構について

竪穴状遺構(SK39)の用途について特定することはできなかったが、内耳土器片を出土する土坑もあることから、付近には中世（室町時代）に属する生活址の存在が予想される。約 800m東方には塩田城があり、同城跡が機能した時期に併行するものである。

以上今回の調査で得られた特記すべき遺構・遺物について若干の考察を試みたが、筆者の認識不足による事実誤認の箇所もあるかと思う。大方の御教示を願うと共に、塩田平の古代史解明に一史料を提供できるものになれば幸いである。また、（財）長野県埋蔵文化財センター 臼井直之・町田勝則 両氏には貴重な御助言を賜った。記して感謝する次第である。

註１　河村好光「古墳社会成立期における玉生産の展開 —北陸玉生産の歴史的位置—」『考古学研究』第 23 巻第 3 号　1976 年

註２　碧玉を発見した時点ですでに床面まで調査が進んでいたため住居内覆土をフルイに掛けることができなかった。従って剥片の有無については断定して述べることができない。なお、碧玉出土地点脇のＰ４内覆土については甕内部の覆土も含め全てフルイに掛けたが剥片は存在しなかった。

註３　下谷地遺跡は本遺跡よりも時代が溯ること、北陸地方の管玉製作には未製品分割工程に擦切り技法が多用されていることから単純に比較できないが、ここでは敢えて取り上げた。

参考文献

銀杏木遺跡について

・日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・（財）長野県埋蔵文化財センター
『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書３—塩尻市内その２－吉田川西遺跡』1989 年

・日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・（財）長野県埋蔵文化財センター
『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４—松本市内その１－総論編』1990 年

宮原遺跡について

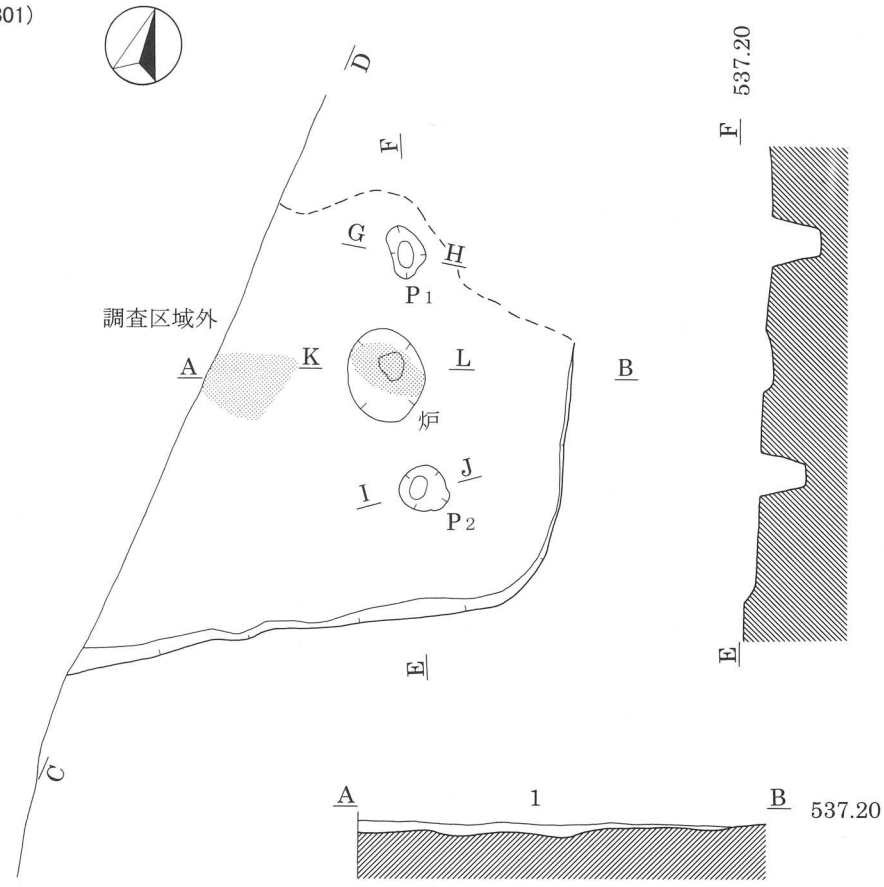
・上田市教育委員会　『岳の鼻遺跡』1994 年

・大町市教育委員会　『中城原』1992 年

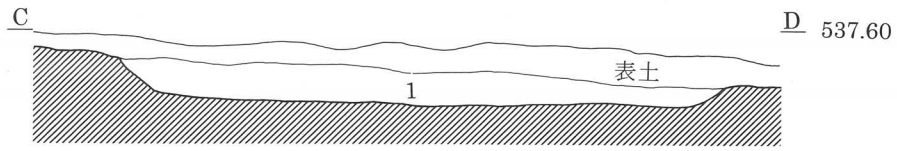
・新潟県教育委員会　『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書—下谷地遺跡』1979 年

・日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・（財）長野県埋蔵文化財センター
『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 16—篠ノ井遺跡群』1997 年

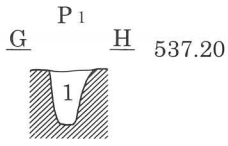
1号住居跡(SB01)



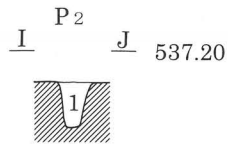
1:黒褐色土 10YR 3/1 (礫・少量の炭化物を含む)



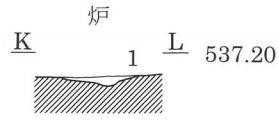
1:黒褐色土 10YR 3/1 (礫・少量の炭化物を含む)



1:黒褐色土 10YR 3/1
(礫・炭化物を含む)



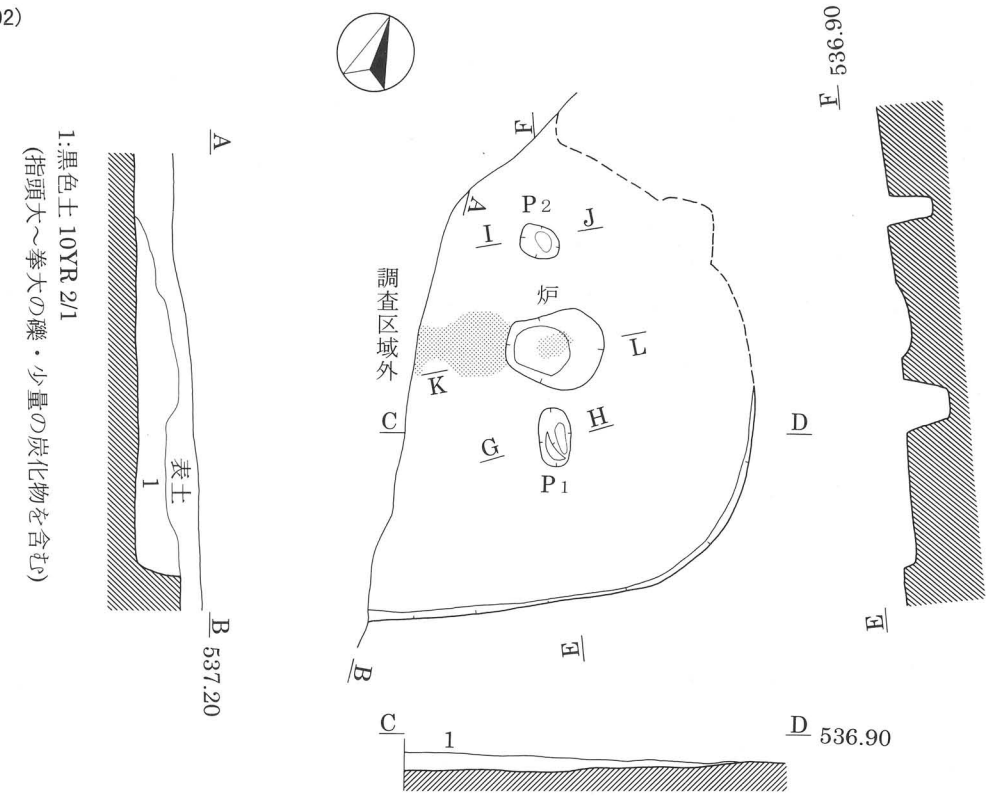
1:黒褐色土 10YR 3/1
(礫・炭化物を含む)

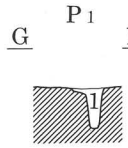


1:黒褐色土 10YR 3/1
(礫・焼土・少量の炭化物を含む)

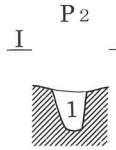
図 10　1号住居跡

2 号住居跡(SB02)

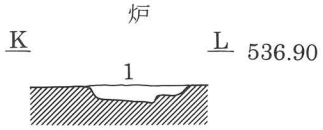




1:黒色土 10YR 2/1
(褐色土 10YR 4/6 ・礫・炭化物を含む)



1:黒色土 10YR 2/1
(褐色土 10YR 4/6 ・礫・炭化物を含む)



1:黒色土 10YR 2/1
(褐色土 10YR 4/6・礫・焼土・炭化物を含む)

SB02 遺物出土状況

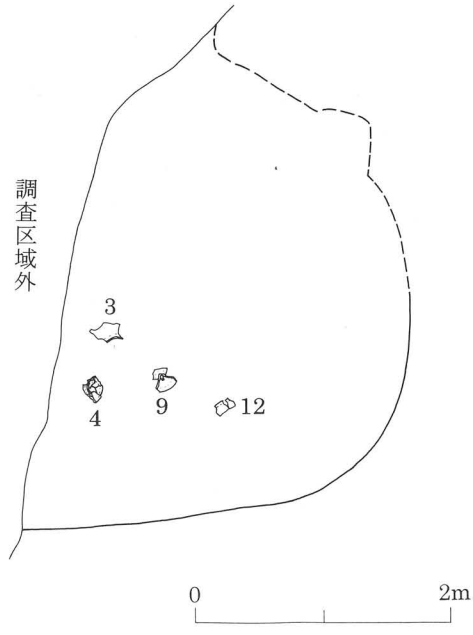
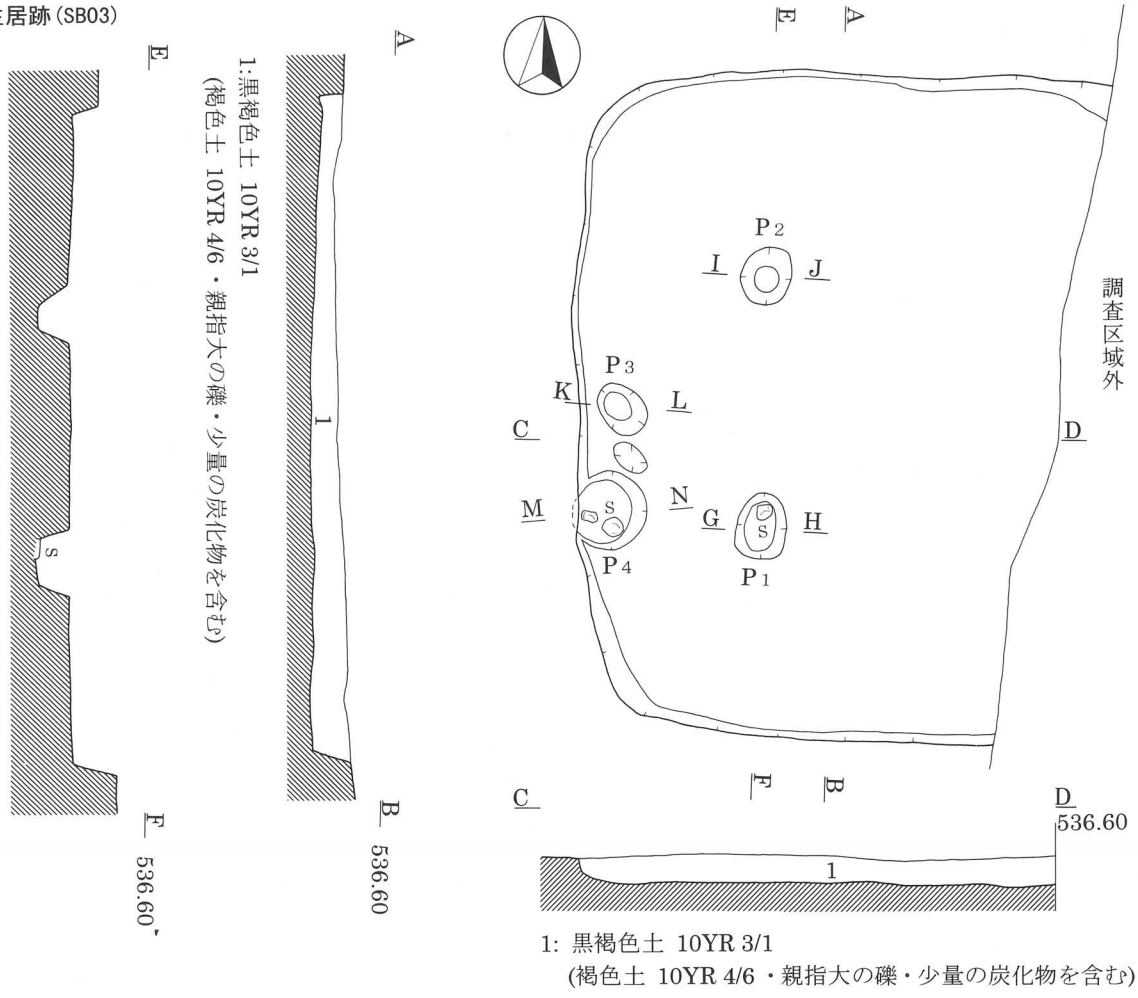


図 11 2号住居跡

3号住居跡(SB03)



P1
G H 536.20

1:黒褐色土 10YR 3/1
(褐色土 10YR 4/6 ・礫・炭化物を含む)

P2
I J 536.20

1:黒褐色土 10YR 3/1
(褐色土 10YR 4/6 ・礫・炭化物を含む)

P3
K L 536.20

1:黒褐色土 10YR 3/1
(礫を含む)

P4
M N 536.40

SB03 遺物出土状況

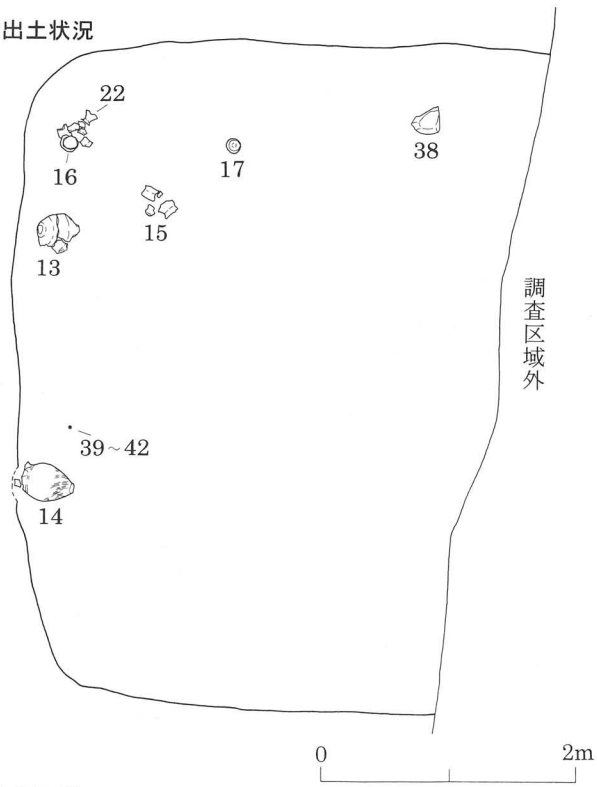
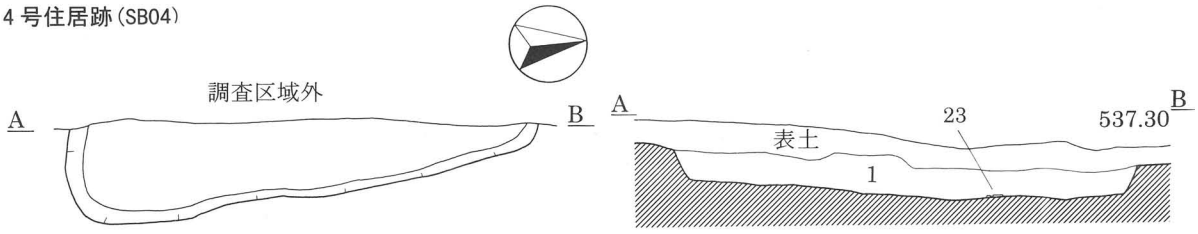


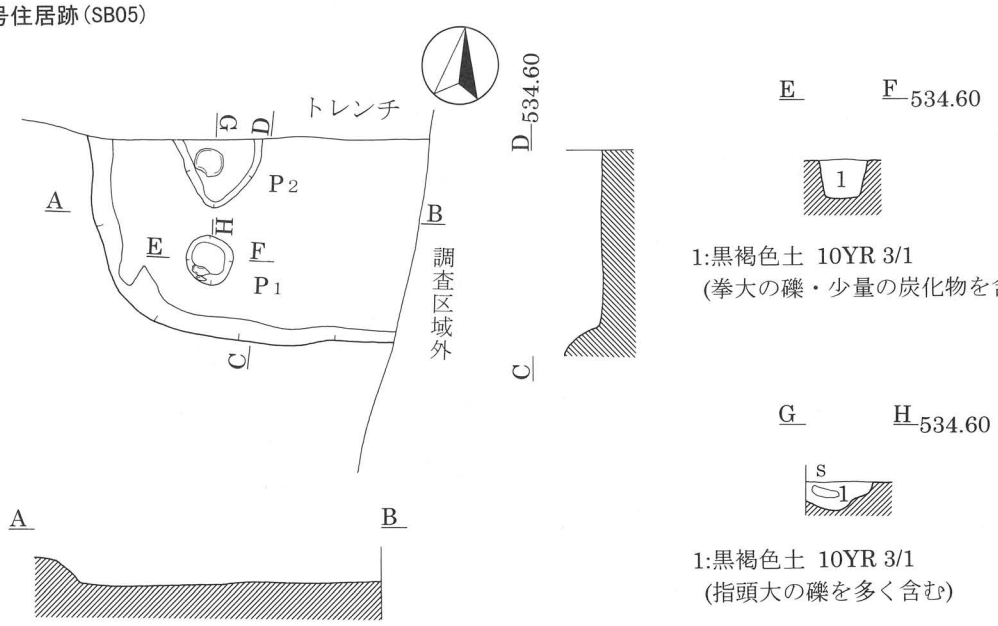
図12 3号住居跡

4号住居跡(SB04)



1:黒褐色土 10YR 3/1
(指頭大～拳大の礫・少量の炭化物を含む)

5号住居跡(SB05)



1:黒褐色土 10YR 3/1
(拳大の礫・少量の炭化物を含む)

1:黒褐色土 10YR 3/1
(指頭大の礫を多く含む)

1号掘立柱建物跡(ST01)

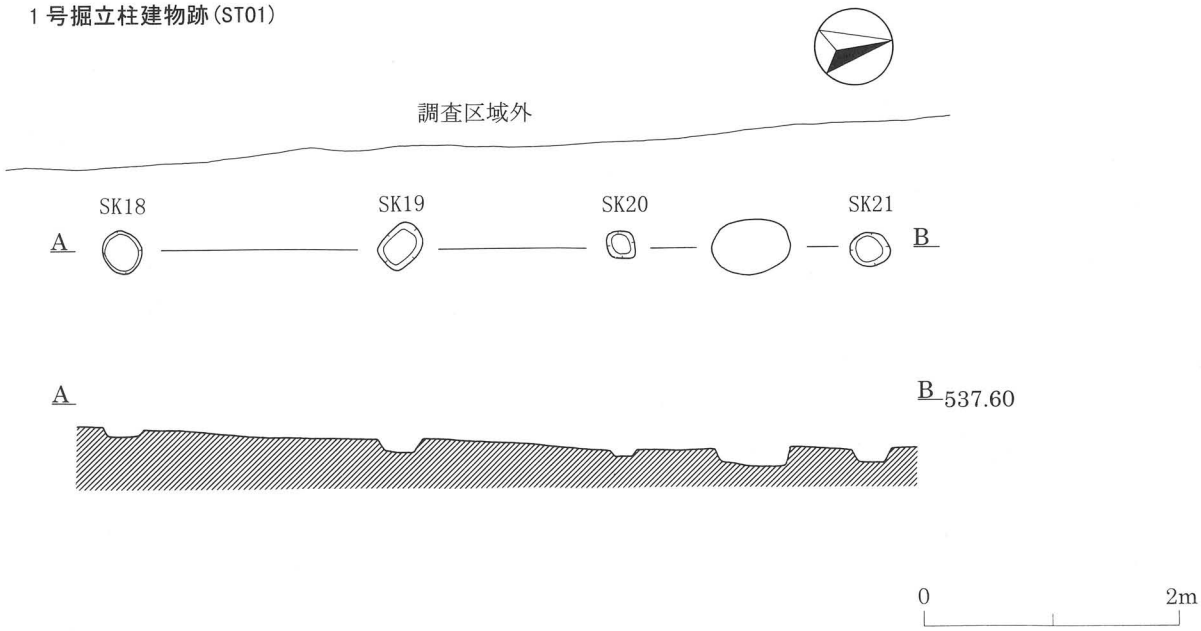
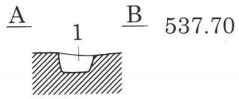
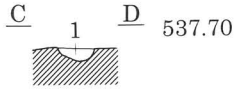


図13 4・5号住居跡、1号建物跡

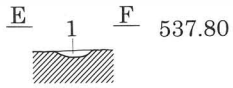
1 号溝跡 (SD01)



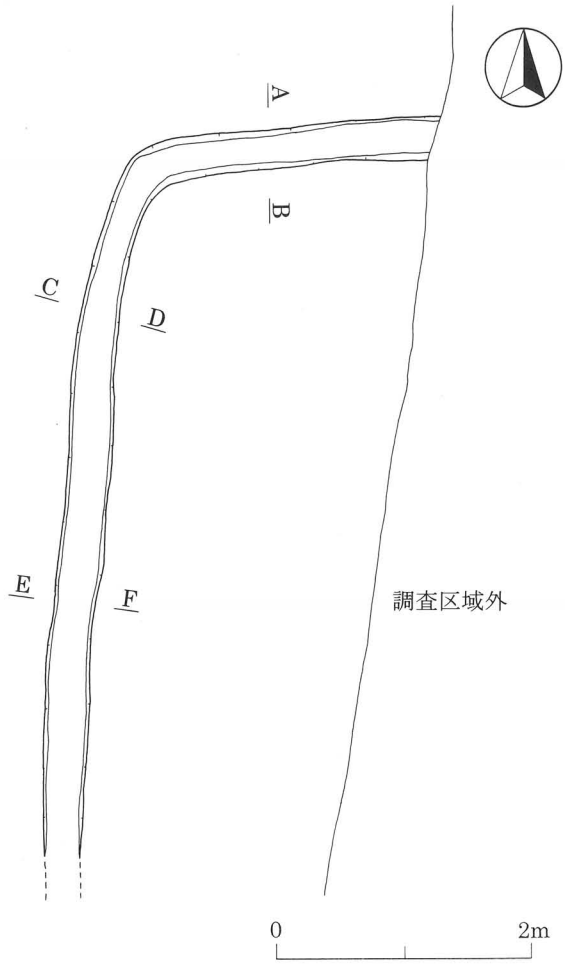
1:褐灰色土 10YR 4/1
(指頭大～拳大の礫・少量の炭化物を含む)



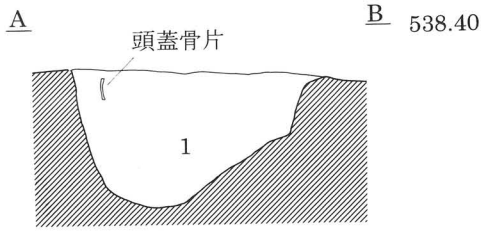
1:褐灰色土 10YR 4/1
(指頭大～拳大の礫・少量の炭化物を含む)



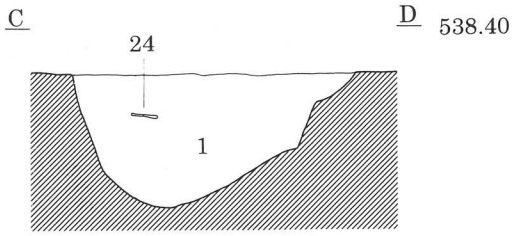
1:褐灰色土 10YR 4/1
(指頭大～拳大の礫・少量の炭化物を含む)



土坑墓 (SK05)



1:黒褐色土 10YR 3/1
(にぶい黄褐色土 10YR 4/3 ・指頭大の礫・炭化物を含む)



1:黒褐色土 10YR 3/1
(にぶい黄褐色土 10YR 4/3 ・指頭大の礫・炭化物を含む)

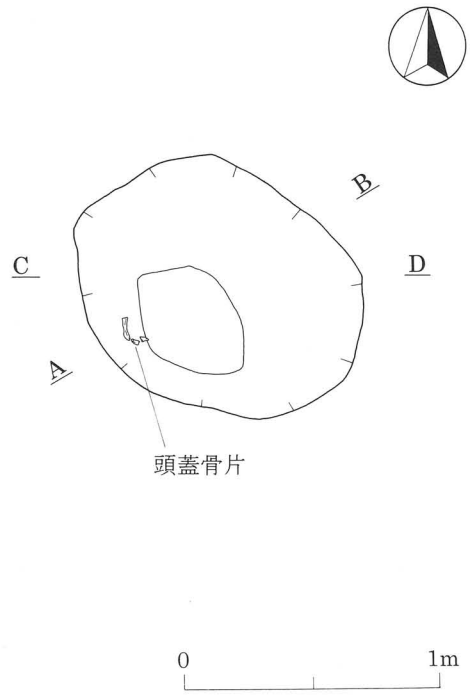


図 14　1 号溝跡・土坑墓

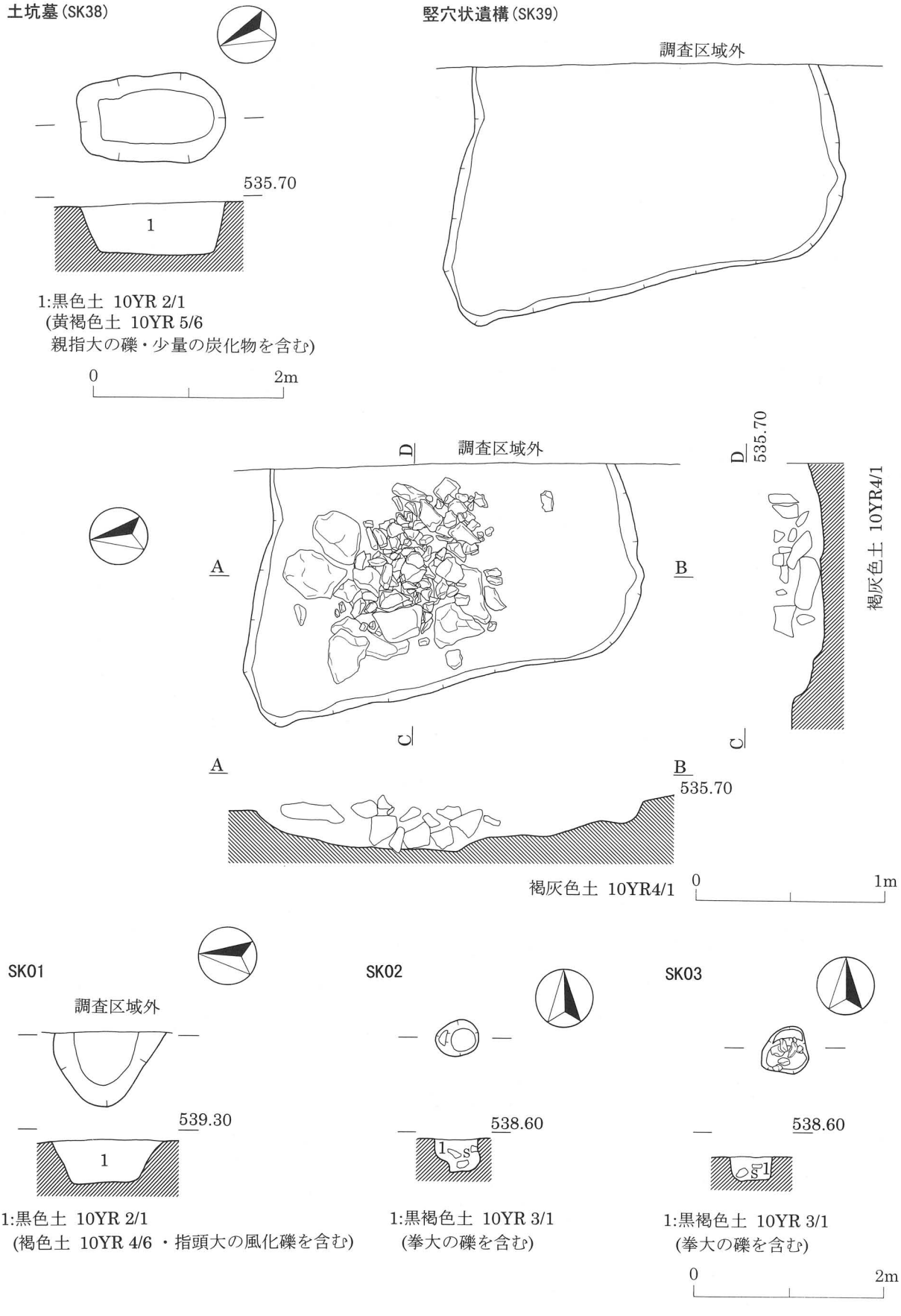
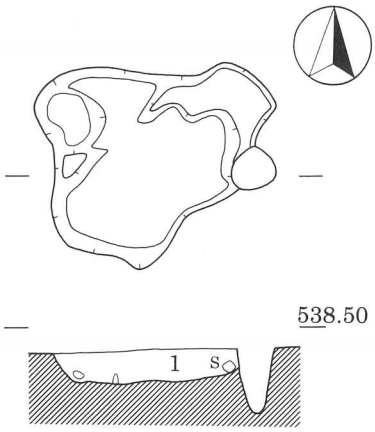


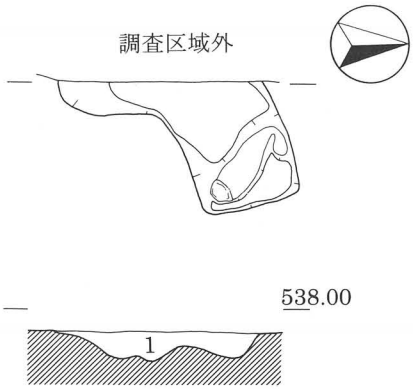
図 15 土坑墓・竪穴状遺構・土坑

SK04



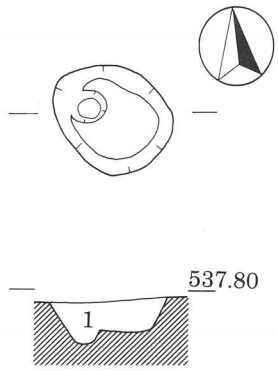
1:黒褐色土 10YR 3/1
(拳大以上の礫を含む)

SK12



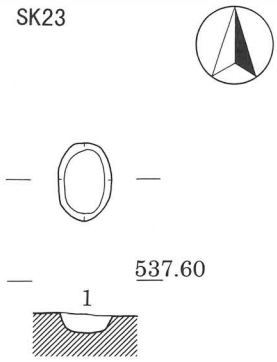
1:灰褐色土 10YR 4/1
(にぶい黄褐色土 10YR 5/4 ・礫を含む)

SK13



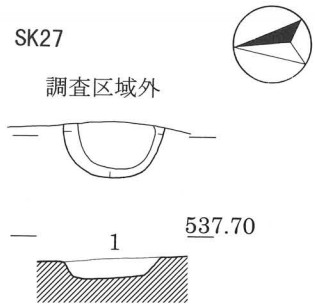
1:灰褐色土 10YR 4/1
(礫を含む)

SK23



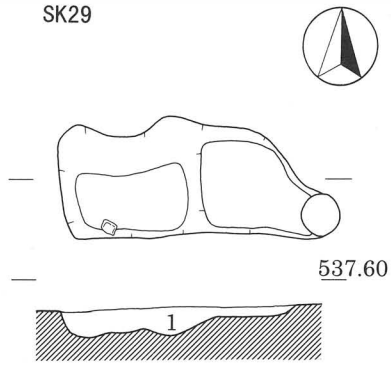
1:灰褐色土 10YR 4/1
(礫を含む)

SK27



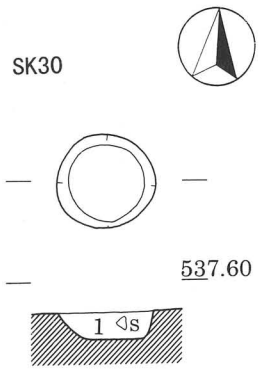
1:灰褐色土 10YR 4/1
(礫を含む)

SK29



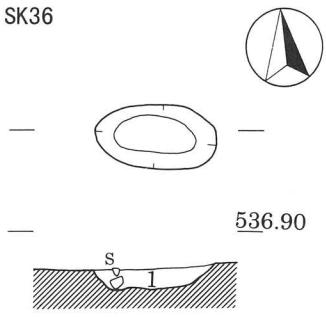
1:灰褐色土 10YR 4/1
(礫を含む)

SK30



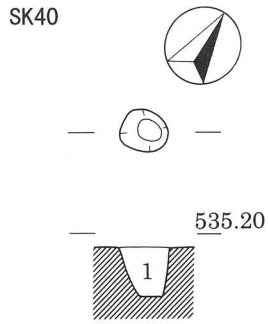
1:黒褐色土 10YR 3/1
(拳大の礫を含む)

SK36



1:黒褐色土 10YR 3/1
(拳大の礫を含む)

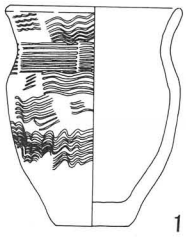
SK40



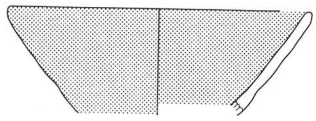
1:褐灰色土 10YR 4/1
(黄褐色土 10YR 5/8
礫・炭化物を含む)

図 16 土坑

1 号住居跡(SB01)

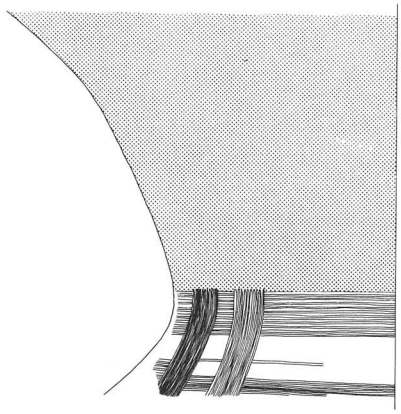


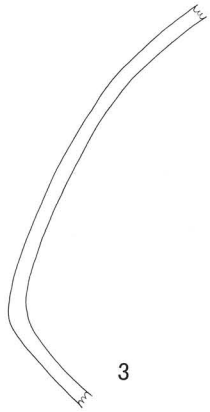
1



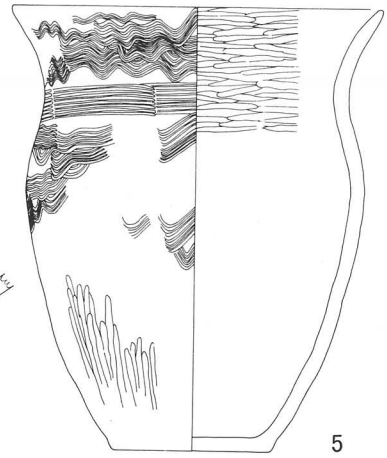
2

2 号住居跡(SB02)

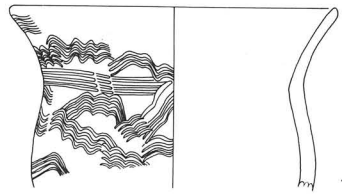




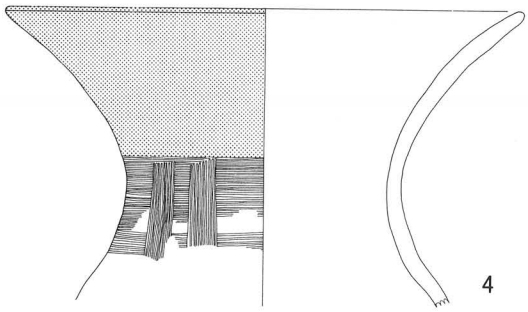
3



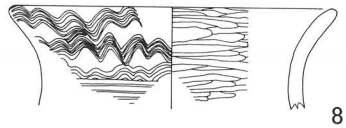
5



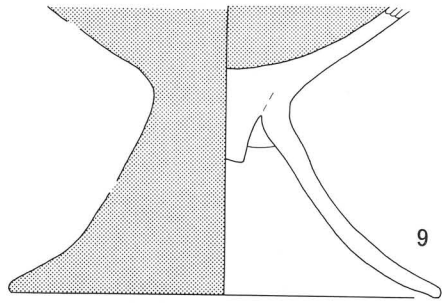
7



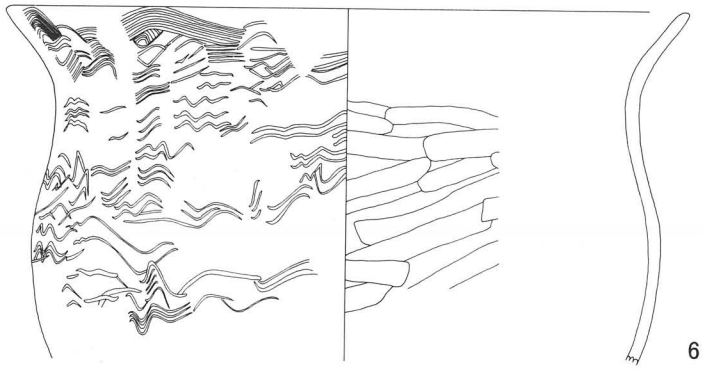
4



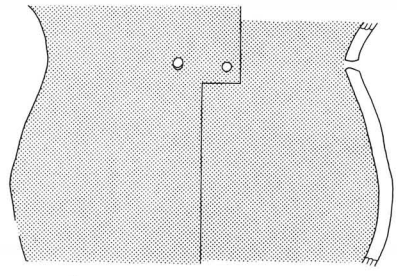
8



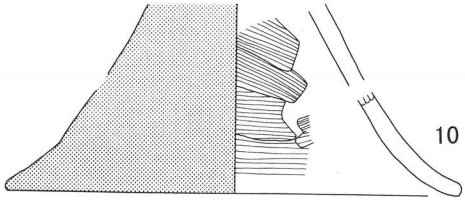
9



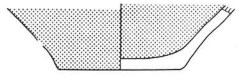
6



12



10



11

0 10cm

図 17 宮原遺跡出土遺物

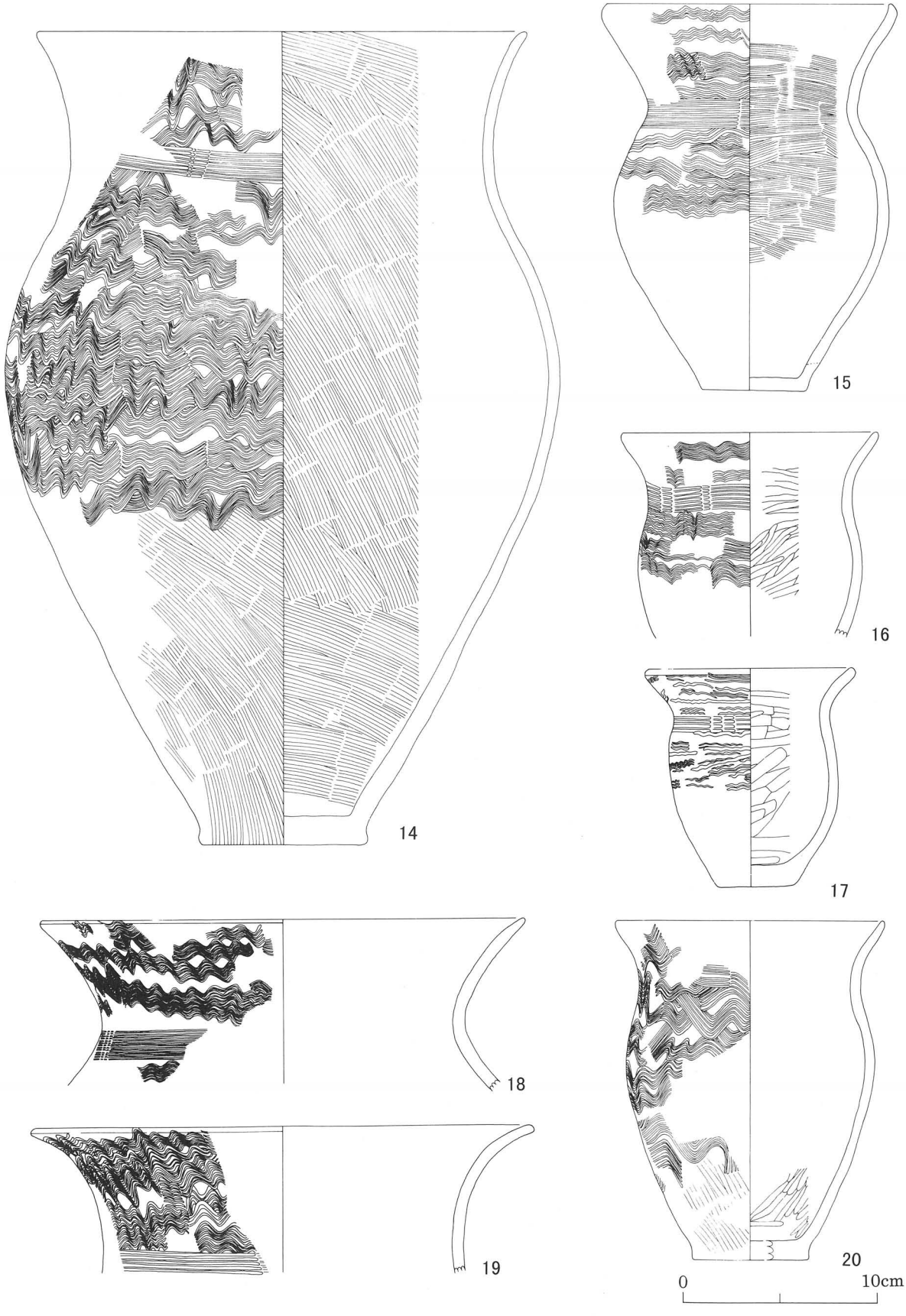
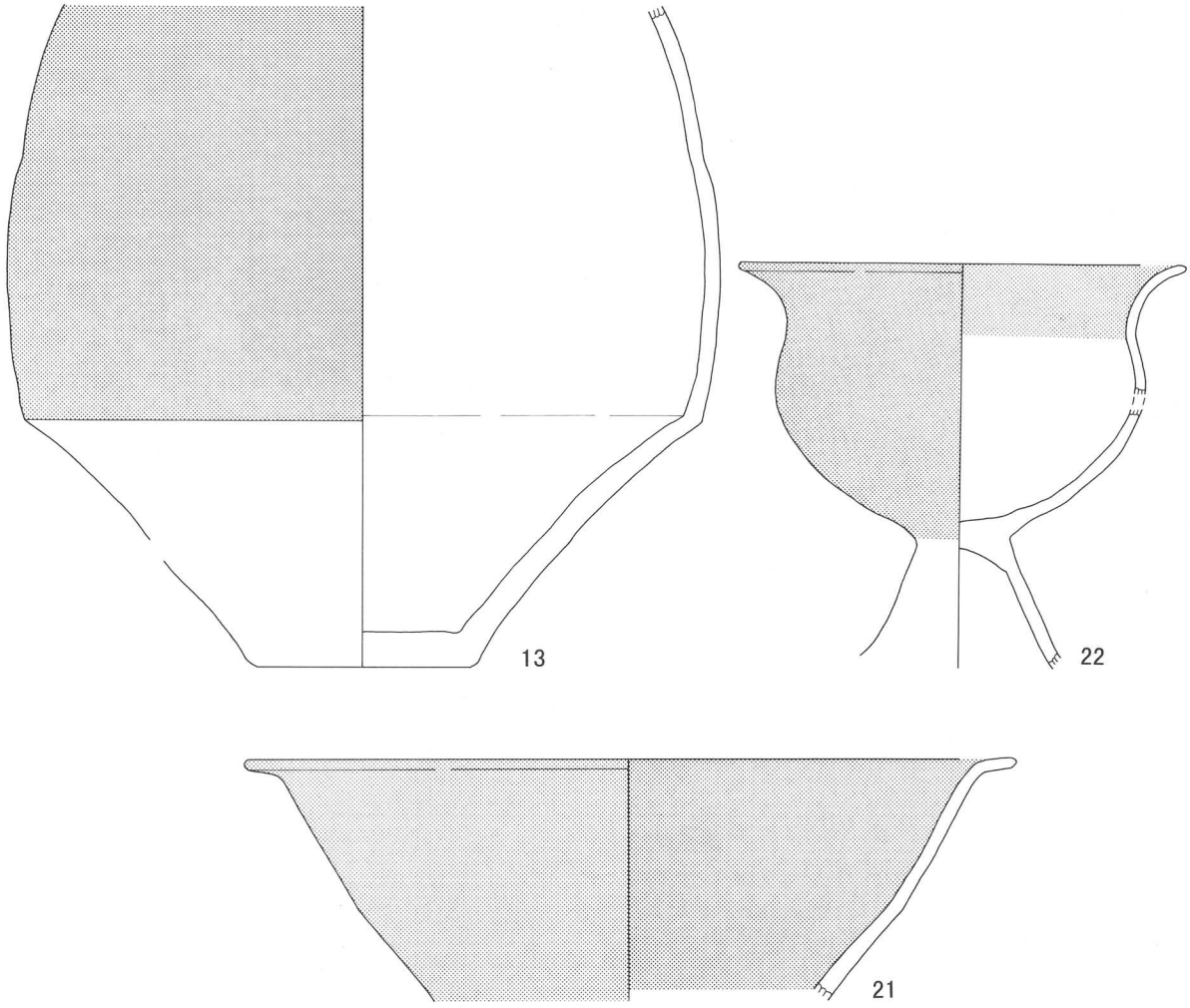


図 18 宮原遺跡出土遺物

3 号住居跡(SB03)



4 号住居跡(SB04)

土坑墓(SK05)

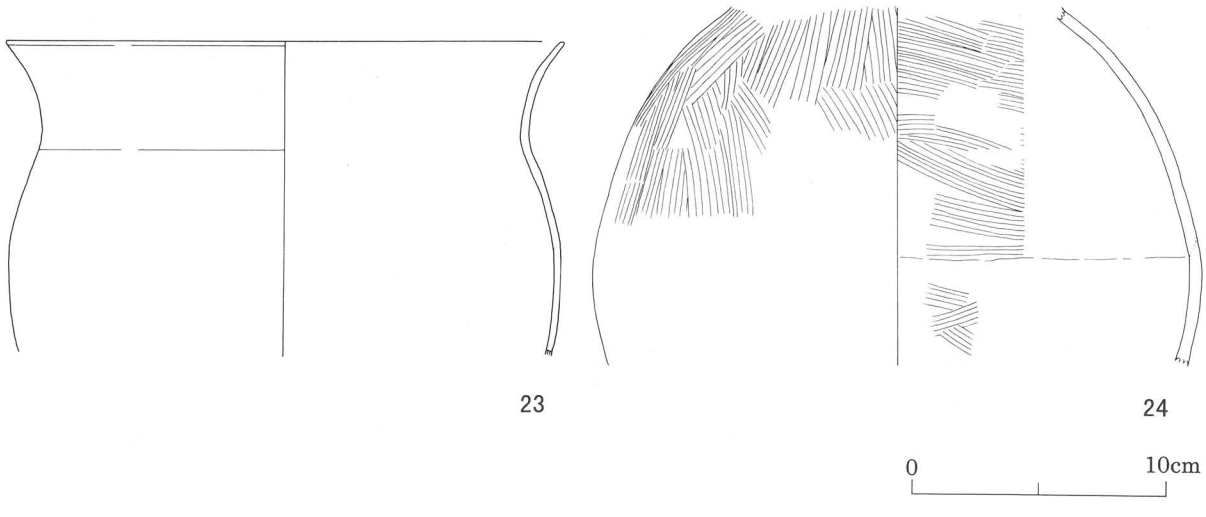
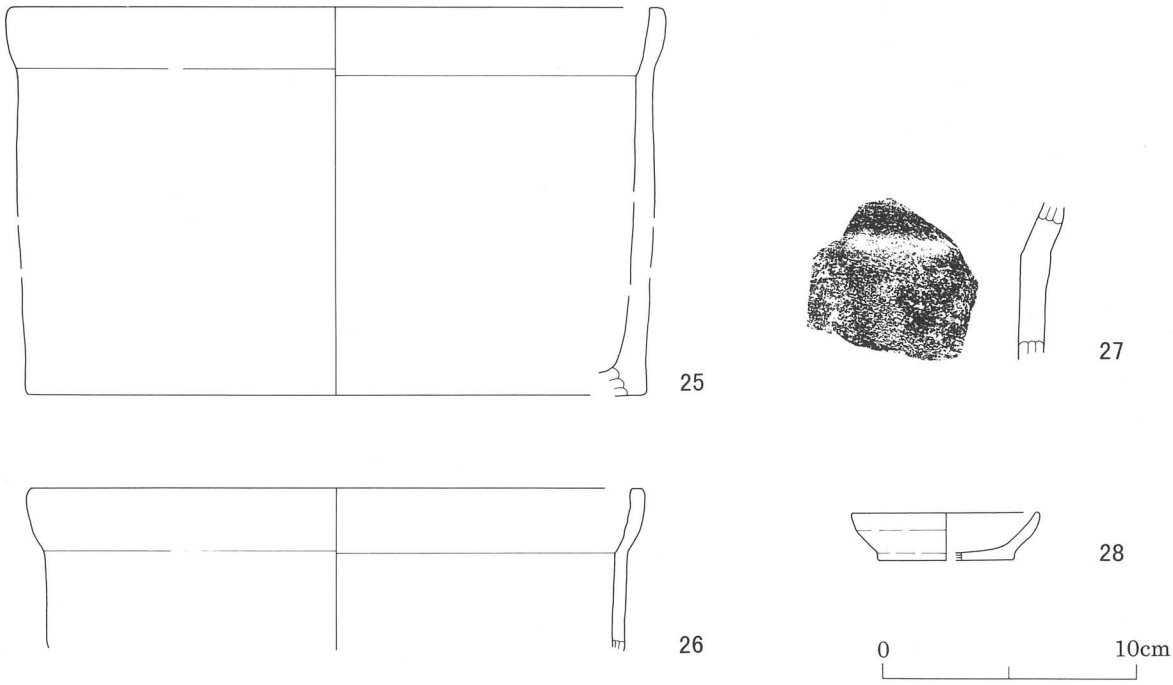


図 19 宮原遺跡出土遺物

竪穴状遺構(SK39)



土器拓本

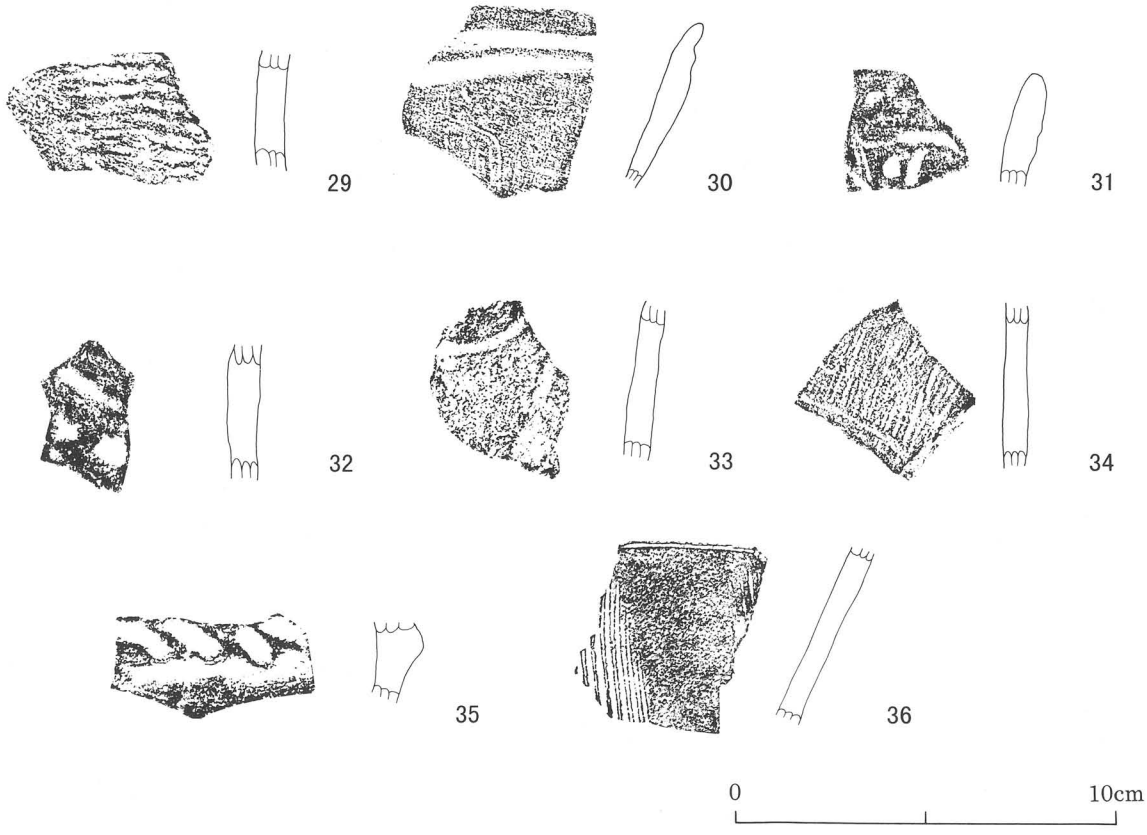


図20　宮原遺跡出土遺物

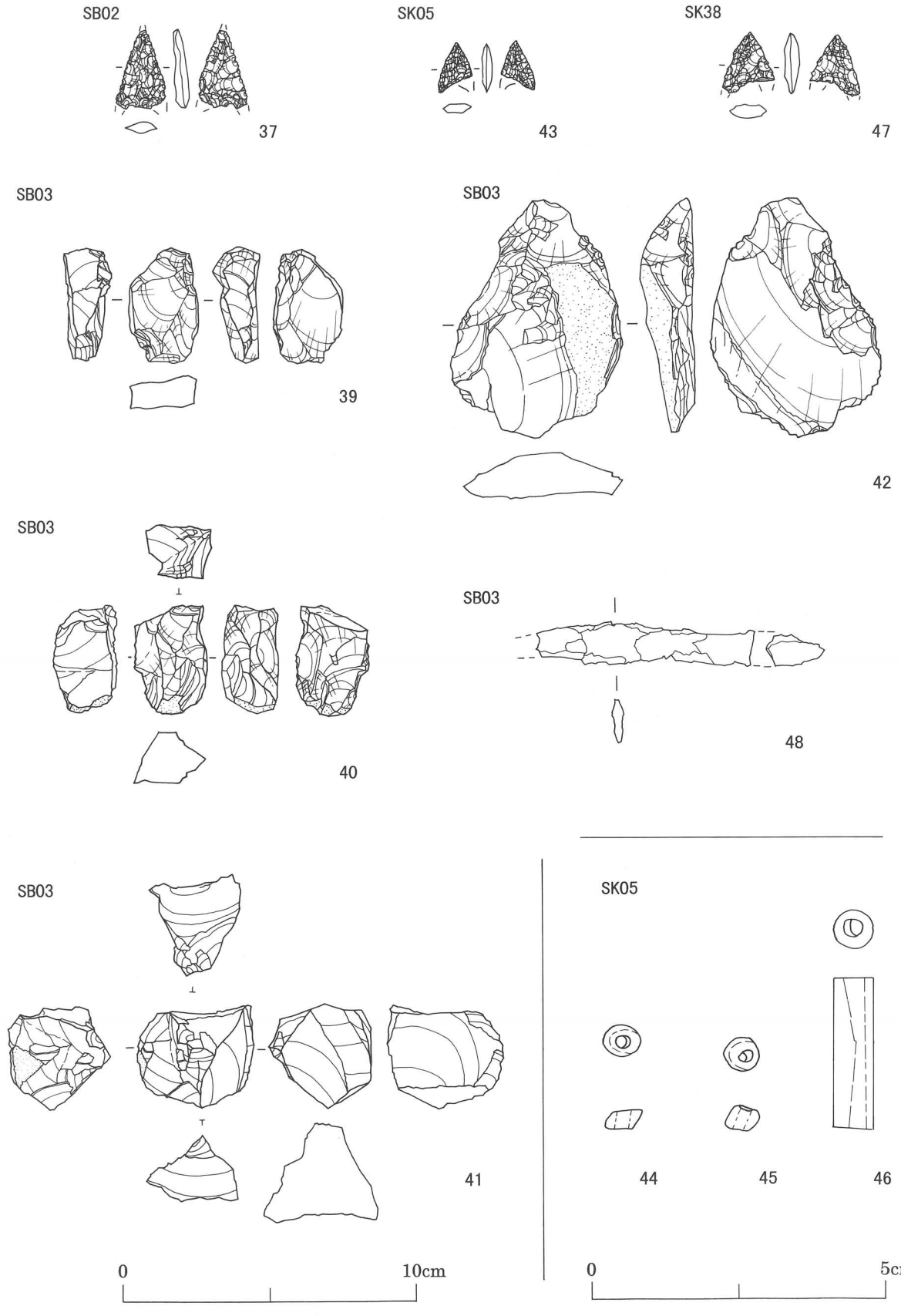


図 21 宮原遺跡出土遺物

SB03

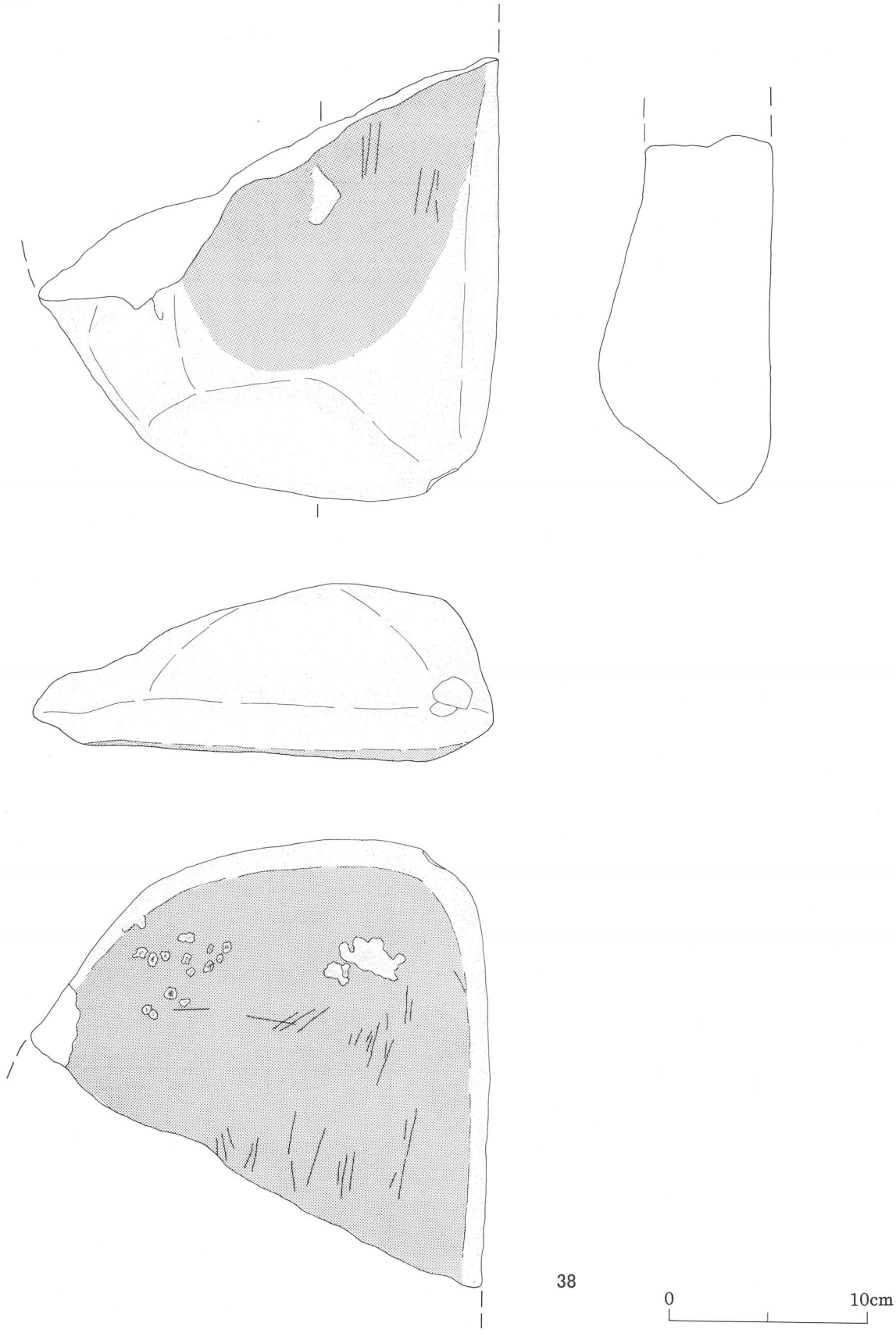


図 22 宮原遺跡出土遺物

宮原遺跡　土器観察表 1

No.	遺構名	器種	時代	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
1	SB01	小型甕	弥生	4/5	(7.0)	3.8	9.0	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒・長石 褐色粒子	良好	波状文・簾状文	ミガキ	
2	SB01	鉢	弥生	口縁1/5	(11.8)	－	－	10R 4/4 赤褐	細砂粒少	良好	赤彩 横ヘラミガキ	赤彩 横ヘラミガキ	
3	SB02	壷	弥生	頸部1/4	－	－	－	5YR 7/6 橙	砂粒・褐色粒子 長石・黒雲母	良好	T字文 縦ミガキ		
4	SB02	壷	弥生	口縁～頸	(19.8)	－	－	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒・長石 褐色粒子	良好	T字文	横ヘラミガキ	
5	SB02	甕	弥生	3/5	(15.4)	5.9	17.9	2.5Y 5/1 黄灰	粗砂粒多 1～3㎜レキ 長石・褐色粒子	良好	波状文・簾状文	横ミガキ	
6	SB02	甕	弥生	2/5	(26.5)	－	－	7.5YR 6/4 にぶい橙	粗砂粒多 1～3㎜レキ 長石	良好	波状文	木口状工具 による調整	
7	SB02	甕	弥生	口～胴上部 1/4	(12.7)	－	－	5YR 6/6 橙	砂粒多・長石 褐色粒子	良好	波状文・簾状文	横ヘラミガキ	
8	SB02	甕	弥生	口縁～頸 1/4	(12.5)	－	－	5YR 6/6 橙	砂粒・長石 褐色粒子	良好	横ナデ後、 波状文・簾状文	横ヘラミガキ	
9	SB02	高坏	弥生	4/5	－	(17.1)	－	10R 5/6 赤	粗砂粒 長石・黒雲母	良好	赤彩	坏部 赤彩	
10	SB02	高坏	弥生	脚部1/2	－	(17.6)	－	10R 5/6 赤	砂粒・褐色粒子 長石・黒雲母	良好	赤彩	横・斜ハケメ	
11	SB02	鉢	弥生	底部	－	5.0	－	10R 5/4 赤褐	砂粒	良好	赤彩	赤彩 横ヘラミガキ	
12	SB02	深鉢	弥生	胴部	－	－	－	10R 4/6 赤	砂粒・褐色粒子 長石・黒雲母	良好	赤彩	赤彩 横ヘラミガキ	頸部に1対2ヶの孔を持つ
13	SB03	壷	弥生	胴～底部 1/2	－	8.8	－	2.5YR 5/6 明赤褐	粗砂粒 1～3㎜レキ 長石・黒雲母	良好	赤彩 縦・斜ヘラミガキ	胴下部 ハケ	
14	SB03	甕	弥生	4/5	(24.9)	8.0	42.2	7.5YR 7/6 橙	砂粒多・長石 褐色粒子	良好	口～胴部上半、 波状文・簾状文 胴部下半 ハケメ	口 横ナデ、以下 横・斜ハケメ 底部 オサエ	
15	SB03	甕	弥生	4/5	15.3	5.5	22.3	5YR 6/6 橙	粗砂粒多 1～3㎜レキ 長石・褐色粒子	良好	波状文・簾状文	口縁 横ナデ 胴部 横ミガキ	
16	SB03	甕	弥生	1/2	13.1	－	－	10R 5/6 赤	砂粒多・長石	良好	波状文・簾状文	横ヘラミガキ	
17	SB03	小型甕	弥生	完形	10.2	4.0	11.5	2.5YR 6/6 橙	砂粒・長石 褐色粒子	良好	波状文・簾状文	口～頸 横篦磨き 胴部 ヘラ調整 底部 オサエ	
18	SB03	甕	弥生	口縁～頸 1/4	(24.8)	－	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・長石 褐色粒子	良好	波状文・簾状文		
19	SB03	甕	弥生	1/5	(25.4)	－	－	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒・灰色粒子	良好	波状文・簾状文	口縁 横ナデ 頸部 横ミガキ	
20	SB03	甕	弥生	1/5	(13.6)	(5.9)	－	5YR 5/3 にぶい赤褐	砂粒・褐色粒子	良好	口～胴部上半、 波状文・簾状文 胴部下半 ハケメ	胴部下半 ヘラ調整	
21	SB03	高坏	弥生	口縁部破片	(30.1)	－	－	7.5YR 5/3 にぶい褐	砂粒・長石	良好	赤彩	赤彩 横ヘラミガキ	
22	SB03	台付 深鉢	弥生	ほぼ完形	17.4	－	－	10R 4/4 赤褐	砂粒・長石 褐色粒子	良好	頸部 赤彩 ・横ヘラミガキ	口～頸 赤彩 頸部内面 横ヘラミガキ	
23	SB04	甕	平安	口縁～頸 1/8	(21.9)	－	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒	良好	口縁 ナデ 胴部 ケズリ		
24	SK05	甕	古墳	胴上部1/4	－	－	－	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒少	良好	縦位・斜位ハケメ	横位ハケメ	輪積痕が見られる

宮原遺跡　土器観察表2

No.	遺構名	器種	時代	残存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
25	SK39	内耳土器	中世	口縁～底部 1/8	(24.8) 内径	(24.2)	15.3	10YR 3/1 黒褐	砂粒多	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
26	SK39	内耳土器	中世	口～胴上部 1/5	(23.2) 内径	－	－	10YR 3/1 黒褐	砂粒多	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	外面に煤の付着が見られる
27	SK39	内耳土器	中世	口縁破片	－	－	－	10YR 6/2 灰黄褐	砂粒多・石英 長石・黒雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
28	SK39	土師質 土器皿	中世	破片	(7.3)	(5.3)	1.9	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒を殆ど 含まない	良好	ロクロ調整	ロクロ調整	
29	SK01	－	縄文中期	破片	－	－	－	7.5YR 6/6 橙	粗砂粒多・石英 褐色粒子・長石 黒雲母	良好			
30	SB02	－	縄文後期	口縁破片	－	－	－	10YR 5/2 灰黄	砂粒・長石	良好			
31	SB03	－	縄文後期	口縁破片	－	－	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・石英 褐色粒子・長石 黒雲母	良好			
32	SB03	－	縄文後期	破片	－	－	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・石英 褐色粒子・長石 黒雲母	良好			
33	SB03	－	縄文後期	破片	－	－	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・石英 褐色粒子・長石 黒雲母	良好			
34	SB03	－	縄文後期	破片	－	－	－	10YR 6/2 にぶい黄橙	砂粒・石英 長石・黒雲母	良好			
35	SB03	－	縄文後期	破片	－	－	－	7.5YR 7/6 橙	砂粒・石英 褐色粒子・長石	良好			
36	遺構外	すり鉢	近世	破片	－	－	－	7.5YR 5/6 明褐	緻密	良好			

宮原遺跡　石器・石製品観察表

No.	遺構名	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	石材	備考
37	SB02	石鏃	(26)	(16)	4.1	(1.57)	チャート	
38	SB03	台石・砥石	(232)	(225)	87	4,875	ひん岩	床面直上出土
39	SB03	碧玉原石	39	22	15	15.2	碧玉	床面直上出土
40	SB03	碧玉原石	38	20	19	19.4	碧玉	床面直上出土
41	SB03	碧玉原石	38	33	33	43.5	碧玉	床面直上出土
42	SB03	碧玉原石	81	58	18	62.9	碧玉	床面直上出土
43	SK05	石鏃	16.5	(11)	2.9	(0.36)	黒耀石	
44	SK05	ガラス小玉	3.1	直径 4.8×5.0		0.13	ガラス	人骨頸部付近から出土
45	SK05	ガラス小玉	3.9	直径 5.2×5.2		0.19	ガラス	人骨頸部付近から出土
46	SK05	管玉	25.8	直径 6.8×7.0		2.03	碧玉	人骨頸部付近から出土
47	SK38	石鏃	(20)	16.9	4	(0.92)	黒耀石	

宮原遺跡　鉄製品観察表

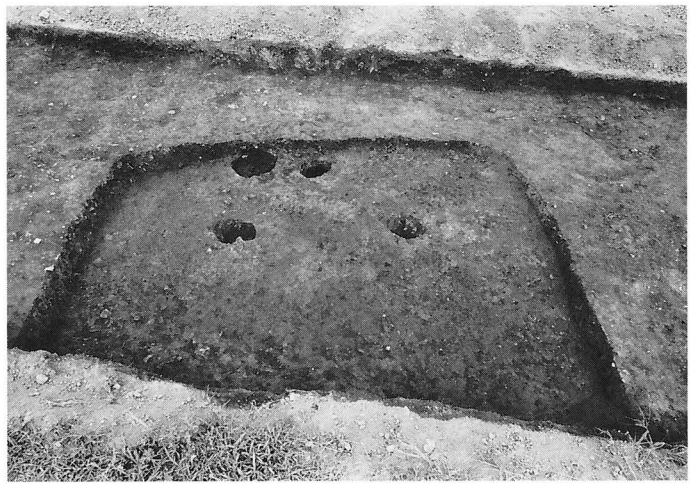
No.	遺構名	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	材質	備考
48	SB03	刀子	(94)	15	3	(7.8)	鉄	

宮原遺跡全景

1 号住居跡（SB01）

2 号住居跡（SB02）土器出土状況

3 号住居跡（SB03）遺物出土状況

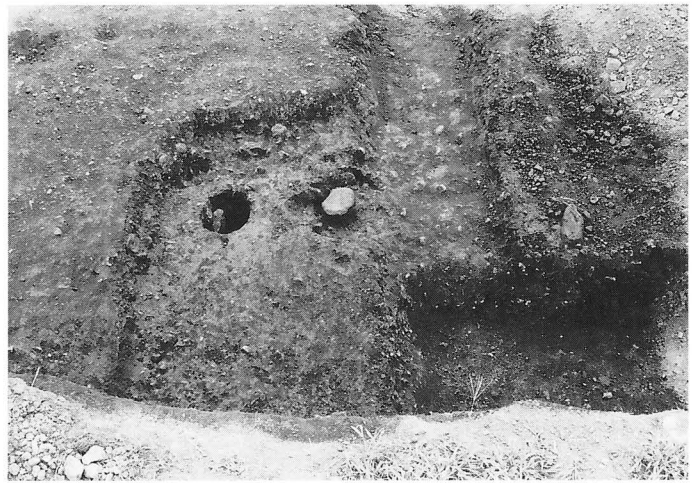


3 号住居跡（SB03）

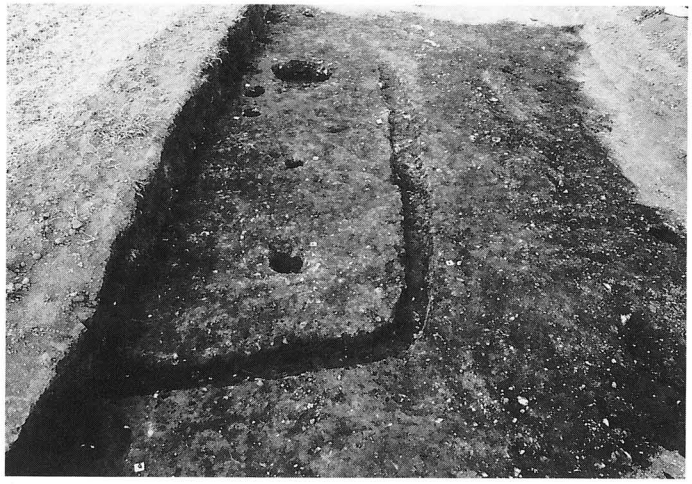
甕（No.14）出土状況（SB03-P4内）

SB03-P3（右上）、P4（中央）、碧玉出土位置（矢印）

4 号住居跡（SB04）

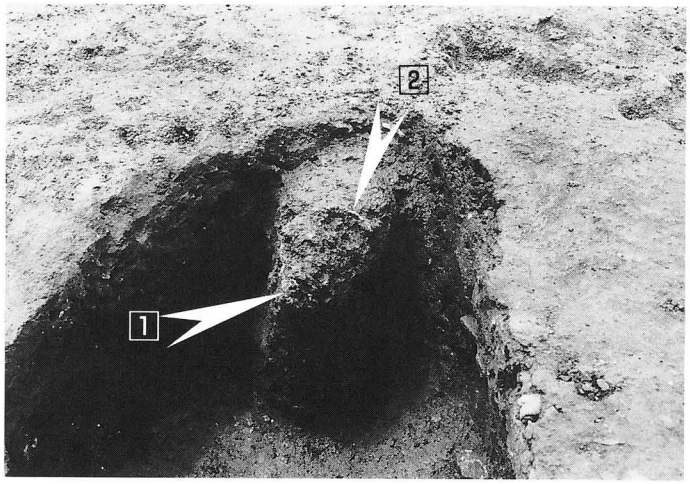


5 号住居跡（SB05）



1号溝跡（SD01）

土坑墓（SK05）頭蓋骨出土状況



SK05　頭蓋骨　1 臼歯　2 後頭部

土坑墓（SK05）

竪穴状遺構（SK39）礫出土状況

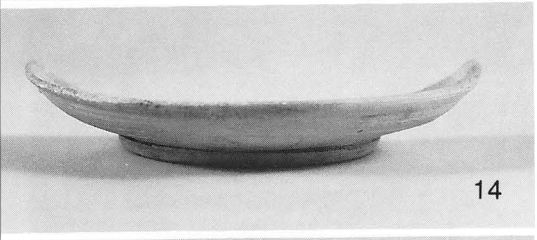
竪穴状遺構（SK39）

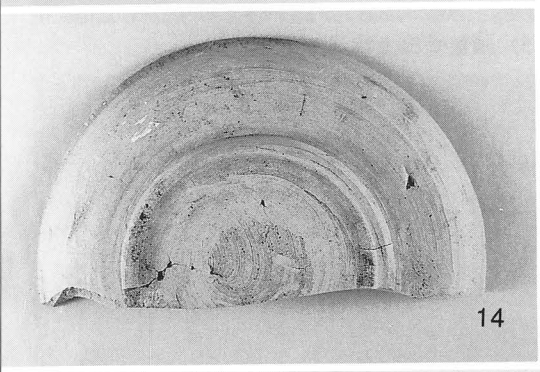
SK38

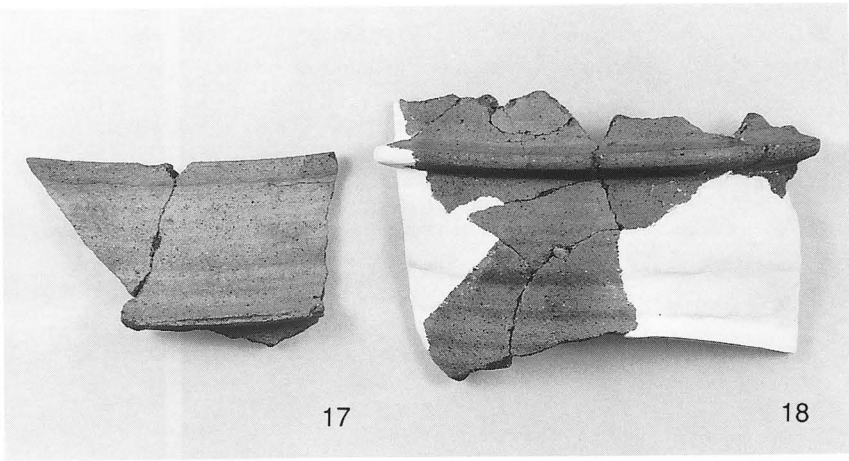
発掘参加者

銀杏木遺跡

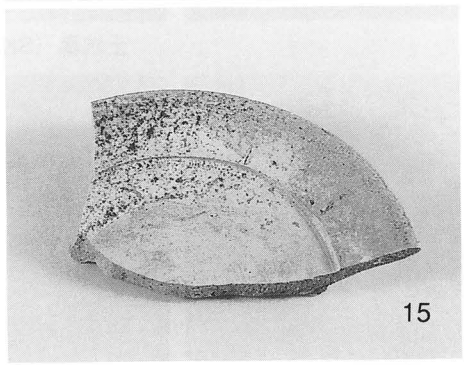
1

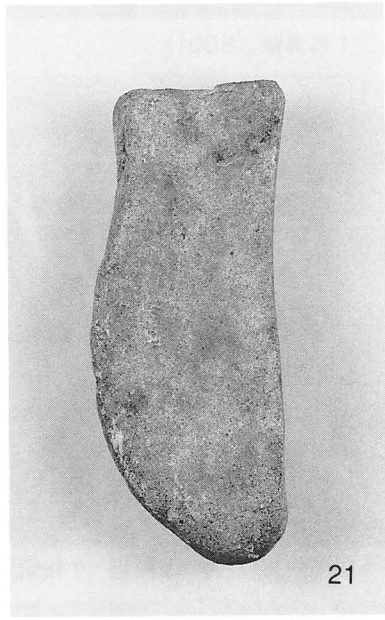

14


14


17

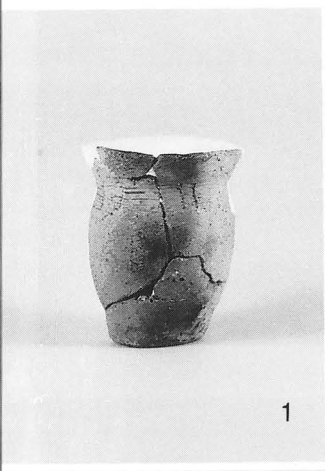
18


15


21

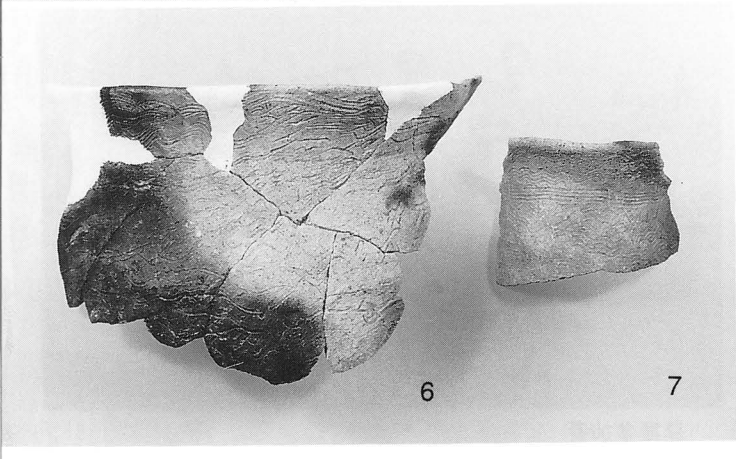
22

宮原遺跡


1

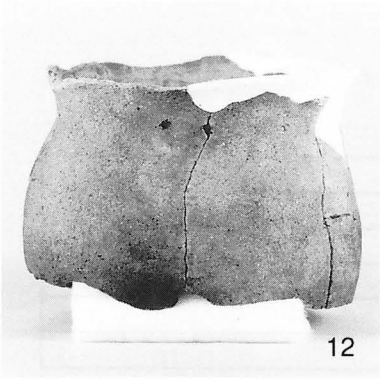
4

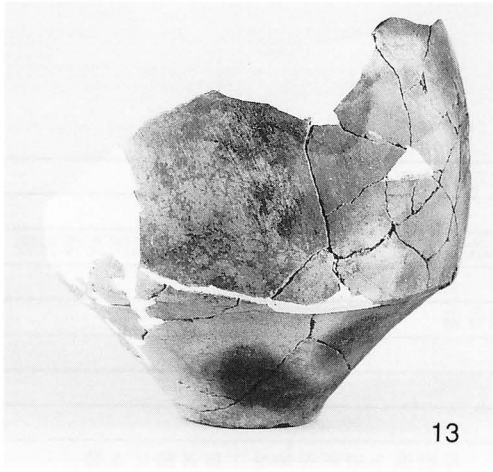
5

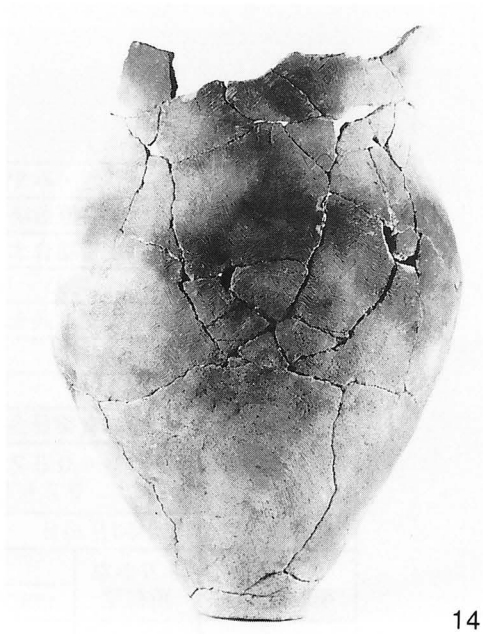

6

7

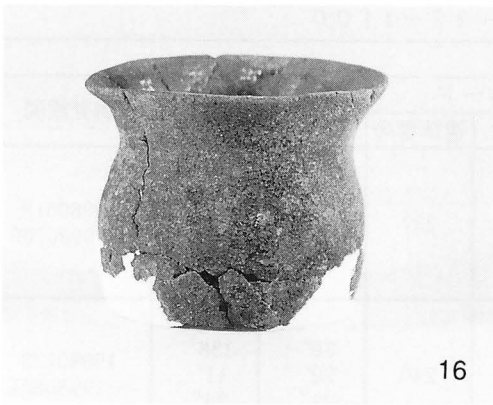
9


12


13


14

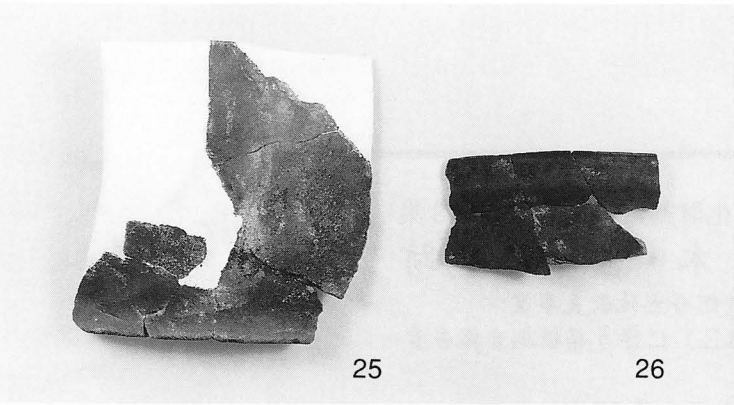
15

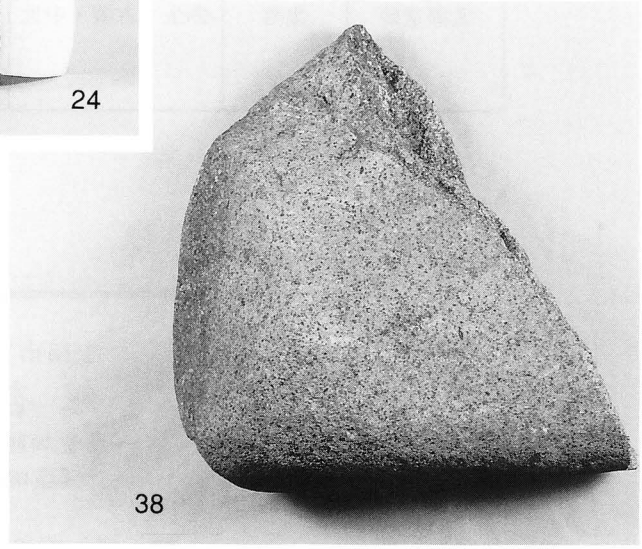

16

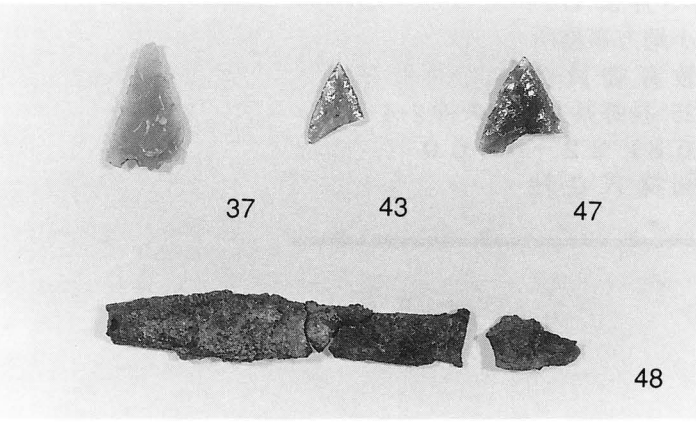
22

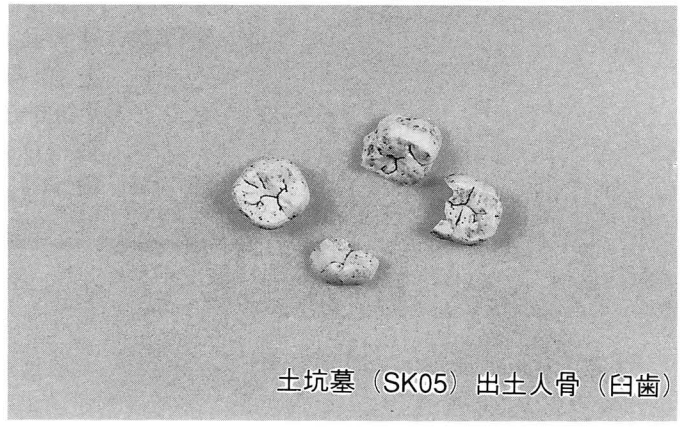
17

24


25 26


38


37 43 47 48


土坑墓（SK05）出土人骨（臼歯）

調 査 報 告 書 抄 録

ふりがな	いちょうぎ・みやはらいせき
書名	銀杏木・宮原遺跡
副書名	県営畑地帯総合土地改良事業（塩田地区）に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第７8集
編著者名	小笠原 正
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒３８６－００２５　長野県上田市天神２丁目４番７４号 ＴＥＬ　０２６８－２２－４１００
発行年月日	1999年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
銀杏木遺跡 いちょうきいせき	上田市 うえだし 大字前山 おおあざまえやま 字銀杏木 あざいちょうき	20203	237	36° 20′ 34″	138° 11′ 25″	19980618 ～19980709	580㎡	県営畑地帯 総合土地改良事業
宮原遺跡 みやはらいせき	上田市 うえだし 大字前山 おおあざまえやま 字宮原 あざみやはら	20203	240	36° 20′ 22″	138° 11′ 24″	19980723 ～19980821	540㎡	県営畑地帯 総合土地改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
銀杏木遺跡	集落	平安	竪穴住居跡１ 掘立柱建物跡１ 溝跡１・土坑７	土師器 刀子・砥石	
宮原遺跡	集落	弥生・古墳・中世	竪穴住居跡５ 掘立柱建物跡１ 土坑墓2・溝跡１ 竪穴状遺構１ 土坑35	弥生土器 土師器 石鏃・管玉 ガラス小玉 碧玉石材 刀子	管玉製作過程のものと思われる碧玉が出土したほか、円形土坑墓から人骨と共に副葬品の管玉・ガラス小玉が出土した。

上田市文化財調査報告書　第78集

銀 杏 木・宮 原 遺 跡

―県営畑地帯総合土地改良事業
（塩田地区）に伴う発掘調査報告書―

発　行　平成11年3月25日
発行者　長野県上小地方事務所
上 田 市 教 育 委 員 会
〒386-0025 長野県上田市天神2-4-74
TEL（０２６８）２２－４１００
印　刷　田 口 印 刷 株 式 会 社